

令和4年度
消防団・自主防災組織等の連携促進支援事業
事例集

令和5年3月
総務省消防庁地域防災室

【はじめに】

平成 28 年度に行われた「自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会」では、自主防災組織等の活動の活性化を図る支援方策が検討され、国において多様な主体との連携の取組事例を収集するため、先進的な取組みに対して財政的支援を行い、その取組みを全国に紹介していくことが求められたところである。

一方、近年、平成 28 年の「熊本地震」や「平成 30 年 7 月豪雨」、「令和元年東日本台風」、「令和 2 年 7 月豪雨」などの大規模災害が頻発している。また、今後、気候変動の影響等により既存の想定を上回る災害の発生や、南海トラフ地震、首都直下地震等の発生が懸念されている。これらの大規模災害を想定すると、行政による「公助」はもとより、住民一人一人が自発的に行う防災活動である「自助」や、自主防災組織をはじめとした、地域の多様な防災組織が連携して行う防災活動である「共助」なくして、被害の軽減を図ることは困難である。そのため、地域防災の担い手となる自主防災組織等の活動の活性化を図ることが重要である。

自主防災組織が、期待される役割を担っていくためには、ひとつの自主防災組織のみでは困難であり、地域の多様な主体が一緒になって自主防災活動に取り組むことが必要となる。その際には、多様な主体が適切に役割分担しながら相互に連携協力する体制を構築することが重要である。

また、自主防災組織が抱える課題を克服していくためには、若年者などの幅広い世代や女性の参加を促進し、地方公共団体における防災の担い手を育成するための取組を促進することが必要となる。

そこで、これらの課題の解決に向けて、消防庁では、平成 29 年度から令和元年度まで、自主防災組織等の地域の防災組織等が、他の組織と連携して実施する防災訓練等の防災に関する取組を支援し、模範的・先進的な取組内容を全国に広く共有するため、取組の提案者である都道府県・市町村（特別区及び一部事務組合を含む）に委託する、自主防災組織等のリーダー育成・連携促進支援事業を実施した。

令和 2 年度からは「消防団・自主防災組織等の連携促進支援事業」として、新たに地域防災力充実強化法第 7 条第 2 項に規定する地区防災計画を策定した地区において定めるべき具体的事業計画に基づく事業、消防団と地域の防災組織等が連携して行う事業を対象に追加して実施している。

本事例集は、上記の令和 4 年度委託事業における取組をとりまとめ、全国を紹介するものである。

目次

【委託団体及び事業名（20 事業）】

| 事例No. | 委託団体名 | 事業名 | ページ数 |
|-------|-------------|---|------|
| 1 | 北海道室蘭市 | 室蘭市消防団第6分団と輪西地区連合会自主防災会が行う地域連携による防災訓練・防災リーダー育成事業及び地域で進める自主防災リーダー等の育成及び自主防災組織組織率向上事業 | 1 |
| 2 | 北海道室蘭市 | 室蘭市消防団みなと分団と蘭西七町連合会自主防災会が行う地域連携による防災訓練・防災リーダー育成事業 | 3 |
| 3 | 茨城県常総市 | 防災スポーツ事業 | 5 |
| 4 | 埼玉県越谷市 | 避難所開設訓練 | 7 |
| 5 | 東京都東村山市 | 令和4年度地域との連携促進に伴う避難所運営研修事業 | 9 |
| 6 | 新潟県津南町 | 地域および多様な防災組織による避難所運営訓練 | 11 |
| 7 | 愛知県豊橋市 | 豊橋市防災リーダー育成・強化支援事業 第2弾 | 13 |
| 8 | 滋賀県大津市 | 消防団・自主防災組織等連携促進支援事業 | 15 |
| 9 | 京都府京都市 | 自主防災組織等が連携したワーキングを踏まえた「自主防災部活動ファイル」のリニューアル | 17 |
| 10 | 大阪府八尾市 | WEB ラーニングを活用した防災リーダー養成講習の実施について | 19 |
| 11 | 兵庫県神戸市 | 神戸BOKOMI フェスタ | 21 |
| 12 | 和歌山県和歌山市 | 消防団応援プロジェクト ～最新の防火衣を着て消防団の魅力向上、知名度UP～ | 23 |
| 13 | 和歌山県海南市 | 誰ひとり取り残さないインクルーシブな地域を目指した取組 | 25 |
| 14 | 鳥取県 | 鳥取県少年消防クラブ育成・連携支援事業 | 27 |
| 15 | 広島県三原市 | 市内少年消防クラブの合同訓練による地域防災力向上のための人づくり推進事業 | 29 |
| 16 | 広島県福山地区消防組合 | 地域防災力の向上のための人づくり推進事業 | 31 |
| 17 | 高知県南国市 | 車中避難所受入訓練 | 33 |

| | | | |
|----|-------------|------------------------------|----|
| 18 | 福岡県八女地区消防組合 | 八女市消防団・自主防災組織等地域交流連携訓練事業 | 35 |
| 19 | 長崎県長崎市 | 消防わく ² （わくわく）探検隊 | 37 |
| 20 | 熊本県荒尾市 | 防災啓発活動及び防災士との連携訓練による地域防災力の向上 | 39 |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 実施団体 | 北海道 室蘭市 | 事業名 室蘭市消防団第6分団と輪西地区連合会自主防災会が行う地域連携による防災訓練・防災リーダー育成事業及び地域で進める自主防災リーダー等の育成及び自主防災組織組織率向上事業 | |
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 防災訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> PR活動 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>室蘭市内には、400箇所の土砂災害危険箇所が存在し、室蘭港内に流入する知利別川(2級河川)は洪水による浸水区域が指定され、想定される地震・津波では、沿岸水位最大9.4mの予測によって、低地帯の多くは津波災害危険区域となる。</p> <p>輪西地区は土砂災害と津波のリスクがあり、輪西地区連合会自主防災会は、14の単一町会の集合体で、令和元年8月1日に自主防災会を結成し、DIGの実施など防災対策の取り組みを進めており、地区防災計画を令和3年2月24日に室蘭市地域防災計画に位置づけ、市内の先進地区の一つとして、防災訓練など防災教育の実施が求められている。また、自主防災組織の活動が円滑に行われるためには、消防団をはじめとする地域の防災関係団体との連携の構築や各世代での防災意識の醸成を進めることが必要となっている。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>輪西地区連合会自主防災会の連絡会議で課題の一つとして上げられた、災害時における円滑な民間避難所開設運営について、室蘭市、自主防災会、民間避難所が参加する津波災害を想定した防災訓練を通して連携について確認し、地域防災リーダーの育成と防災力向上を目的とする。</p> <p>また、東日本大震災から10年以上が経過し、その間に室蘭市でも北海道胆振東部地震でのブラックアウトなど、2度の大停電を経験し、少なからず市民の防災意識の高まりはあるが、各地区において自主防災組織を中心とした地域コミュニティの構築が課題となっており、様々な災害に対して適切な避難行動をとるための備えや防災の知識について、イベントや講演会を通じて世代問わず幅広く浸透させることにより、自主防災組織の強化を目的とする。</p> | | |
| 事業の概要 | <p>6つの個別事業を実施して、防災・減災の体制強化を図った。</p> <p>●4-1_輪西地区連合会自主防災会防災訓練 防災訓練、情報伝達訓練、資機材取扱研修、自主防災会三者協定懇談会</p> <p>●4-2_中島商店街BCPと地域連携 旭ヶ丘小学校防災フィールドワークへの協力、岩手県釜石と交流(被災体験講話)、ワールドカフェ「地域間交流と連携」、災害図上訓練(DIG)</p> <p>●4-3_室蘭市消防・防災フェスタ2022 ●4-5_室蘭市防災講演会 消防体験、企業・団体の防災展示、宮古市交流、防災講演</p> <p>●4-4_防災デイキャンプ2022 防災ゲーム、非常食体験、段ボールベッド作成体験</p> <p>●4-6_地域で進める自主防災リーダー等の育成 PTAによる避難所体験、青健協による防災フィールドワーク、NPOによるDIG</p> | | |
| 事業の背景 | <p>●4-1_輪西地区連合会自主防災会防災訓練 輪西地区の地域特性を学び、ステークホルダーとの連携強化と防災力向上及び自主防災会活動の定着を図る。</p> <p>●4-2_中島商店街BCPと地域連携 地域における防災力が求められている中で、商店街を中心とした自主防災組織のあり方とBCPについて考える。</p> <p>●4-3_室蘭市消防・防災フェスタ2022 ●4-5_室蘭市防災講演会 市民参加イベントをとおして、防災知識を高め、地域の防災力の向上を図るとともに、幅広い世代への啓発につなげる。</p> <p>●4-4_防災デイキャンプ2022 イベントを通して児童自らの身を守る知識を身につけ、地域とのネットワークづくりを構築し、自主防災リーダーを育成する。</p> <p>●4-6_地域で進める自主防災リーダー等の育成 自主防災会が結成されたばかりの東明地区において、様々なイベントを通して防災について学び、地域の自主防災リーダー等の育成を図る。</p> | | |

- 4-1_輪西地区防災訓練：ステークホルダーとの連携強化と防災力向上が図られた。
- 4-2_中島商店街BCPと地域連携：防災事業を通して様々な関係団体との連携をさらに深め、これまでの取り組みをホームページに掲載した。
- 4-3_室蘭市消防・防災フェスタ2022●4-5_室蘭市防災講演会：市民参加型の防災イベントとして、民間企業の防災分野の取り組みや地域での先進的な防災の取り組みについて広く紹介した。
- 4-4_防災デイキャンプ2022：隣接する登別市と登別室蘭青年会議所とともに、小学生を対象に様々なプログラムを通して災害のリスクや身を守るための知識を学ぶことができた。
- 4-6_地域で進める自主防災リーダー等の育成：東明地区における地域のステークホルダーが実施する様々なイベントを通して防災への意識を高め、次のステップへつなげる足がかりとなった。
- 令和5年2月現在で自主防災組織の結成率は83.8%となり、当初の目標を上回った。

事業の成果

写真1 2022/8/27
4-1_輪西地区連合会自主防災会防災訓練



写真2 2023/1/28
4-2_中島商店街BCPと地域連携



写真3 2022/10/22
4-3_室蘭市消防・防災フェスタ2022



写真4 2022/9/23
4-4_防災デイキャンプ2022



事業の写真
成果物等

写真5 2023/2/4
4-5_室蘭市防災講演会



写真6 2022/12/21
4-6_地域で進める自主防災リーダー等の育成



本市において町内会・自治会または地区連合町会が母体となり結成された自主防災会がほとんどであり、その町内会が高齢化や担い手不足の課題を抱えており、このことは自主防災会にも影響し今後は新たな自主防災会の結成はあまり進まないことが予想される。
また、既存の自主防災会でも地域差があることから、引き続き防災訓練や防災啓発事業を進め、防災力の強化を図りつつ、若い世代への防災教育を進めることで次の世代とさらにその次の世代の自主防災リーダーの育成に繋げていく。

今後の展開

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 実施団体 | 北海道 室蘭市 | 事業名 室蘭市消防団みなと分団と蘭西七町連合会自主防災会が行う地域連携による 防災訓練・防災リーダー育成事業 | |
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> 防災訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> PR活動 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>室蘭市内には、400箇所の土砂災害危険箇所が存在し、想定される地震・津波では、沿岸水位最大9.4mの予測によって、低地帯の多くは津波災害危険区域となる。</p> <p>室蘭市消防団みなと分団及び蘭西七町連合会自主防災会がある蘭西地区は、南部の低地帯に位置し、多くが津波災害危険区域にあたり津波が主なリスクとなる地域である。</p> <p>蘭西七町連合会自主防災会は、7つの単位町会で形成され、それぞれの単一町会で自主防災会を結成している地区であったが、令和2年12月8日に連合体として一つの自主防災会を結成した。</p> <p>その中で要支援者の避難支援や防災活動の定着のための啓発に課題があることを確認し、課題解決に向けた取り組みが求められている。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>室蘭市消防団みなと分団および蘭西七町連合会自主防災会と地域の防災関係団体で進められた、蘭西七町連合会自主防災会地域内連絡会議で課題の一つとして上げられた、津波災害時の要支援者への避難支援について解決するために、避難行動要支援者個別避難計画の作成や避難訓練等を行いながら、地域防災リーダーの育成と防災力向上を目的とする。</p> | | |
| 事業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1_自主防災会防災訓練 (新型コロナウイルスの影響により中止) 防災訓練、情報伝達訓練 2_蘭西七町地区避難行動要支援者個別避難計画作成 災害時避難行動要支援者個別避難計画作成 3_自主防災会防災講話 町内会・自治会活性化シンポジウム、パネルディスカッション 4_自主防災会三者協定懇談会と防災活動啓発 避難所協定連絡会、津波避難経路図作成 | | |
| 事業の背景 | <ol style="list-style-type: none"> 1_自主防災会防災訓練 (新型コロナウイルスの影響により中止) 津波災害時の避難目標の一つとしている、室蘭西中学校と連携し、災害図上訓練(DIG)を実施するとともに、避難について課題を確認するために、地震・津波災害を想定した防災訓練を実施する。 2_蘭西七町地区避難行動要支援者個別避難計画作成 避難行動要支援者名簿を活用し個別避難計画を作成する対象者の選定および自助力の判定を行い、支援方法と避難ルートを決定する。 3_自主防災会防災講話 自主防災会に関連する話題について防災講話を開催し、自主防災会と防災関係団体の連携促進と防災力強化を図るため、町内会を中心とした災害時の助け合いなどの地域課題についてパネルディスカッションを行う。 4_自主防災会三者協定懇談会と防災活動啓発 自主防災会と避難所施設管理者と室蘭市との三者懇談による災害時の円滑な避難所運営と防災活動啓発による自主防災会活動の定着を図る。 | | |

2_蘭西七町地区避難行動要支援者個別避難計画作成

災害時にひとりで避難できない高齢者をどのように支援するかが課題となっていたが、市内における先行事例として個別避難計画を作成し、一定の課題解決ができた。

3_自主防災会防災講話

懸念事項である高齢化及び担い手不足について、共通の課題を抱える町内会・自治会での地域課題を解決する取り組みについて共有することで、自主防災会の体制強化につながった。

4_自主防災会三者協定懇談会と防災活動啓発

災害時の円滑な避難所運営のために避難所施設管理者と室蘭市との三者懇談会を実施し、津波避難経路図を作成し、早期津波避難の意識向上が図られた。

事業の成果

写真 1

2022/9/14

2_蘭西七町地区避難行動要支援者個別避難計画作成



写真 2

2022/9/14

2_蘭西七町地区避難行動要支援者個別避難計画作成



写真 3

2022/12/20

3_自主防災会防災講話



写真 4

2022/12/20

3_自主防災会防災講話



事業の写真
成果物等

写真 5

2023/1/23

4_自主防災会三者協定懇談会と防災活動啓発



写真 6

2023/2/13

4_自主防災会三者協定懇談会と防災活動啓発



災害時避難行動要支援者個別避難計画について一部ではあるものの作成することができた。蘭西七町地区での取り組みを先行事例として、今後は他の地域での作成に着手していく。

さらに、町内会・自治会の高齢化や担い手不足の解消が、自主防災会での課題解決にもなるため、連携して若い世代への啓発を進め、次世代の自主防災リーダーの育成に繋げていく。

また、新型コロナウイルスの影響により実施に向けた調整ができなかった津波災害を想定した防災訓練について、制限が緩和される見込みとなっていることから、実施に向けて取り組んでいく。

今後の展開

| | | | | |
|---------------|--|-----------------|------------|-----------|
| 実施団体 | 茨城県常総市 | 事業名 防災スポーツ事業 | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | ■ 防災訓練 | □ 避難所運営 | □ その他 () |
| | ■ PR活動 | □ 環境整備 | □ 組織の設立 | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | ■ 自主防災組織 | □ 自治会(町内会) | □ 学校 |
| | □ 医療機関 | □ 事業所 | ■ 消防団 | □ 女性防火クラブ |
| | □ 少年消防クラブ | ■ 防災士会 | □ NPO | □ ボランティア |
| | □ 社会福祉協議会 | □ その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>自主防災組織の結成率は、約6割と低調に推移している。要因はさまざま考えられるが、地縁関係がすでに構築できている地域、一方で地域の結びつきが希薄になっている地域、結成するためのリーダーの欠如が主な要因と考えられる。</p> <p>こうした中、小学校区単位の防災組織の結成に舵をきり、活動を促進している状況で、市民の方々からは、結成して継続して活動を続けていくための取組みに不安を感じる声も多く聞かれる。</p> <p>また、東日本大震災や平成27年9月の関東・東北豪雨の被災経験から、市役所からの迅速な連絡や地域間の連絡体制の確立は、喫緊の課題である。</p> | | | |
| 事業の目的 | <p>楽しみながら防災についての知識の習得や防災意識の高揚につなげてもらう。</p> <p>そして、地域の要・共助の要として活動している消防団や自主防災組織のほか防災士など、さまざまな関係機関が事業に参加し、顔の見える関係を構築することで地域防災力の強化につなげる。</p> | | | |
| 事業の概要 | <p>過去の災害経験から開発されたスポーツの要素を多く取り入れた防災プログラムを実施。</p> <p>種目詳細は、以下のとおり</p> <p>①キャタピラエスケープ→低い姿勢で煙をすいこまないよう避難する。</p> <p>②レスキュータイムアタック→身の回りのもので担架を作り負傷者を搬送する。</p> <p>③キャットサイクルレース→小回りの利く一輪車の操作方法を身につける。</p> <p>④ゴーゴーキャリー→支援物資を限られたスペースに整理・収納する。</p> <p>⑤ウォーターレスキュー→川や海でおぼれた人を救助する。</p> <p>⑥防災知識トレーニング→災害時に必要な知恵をクイズ形式で答える。</p> | | | |
| 事業の背景 | <p>8月5日 株式会社シンクに一部業務を委託</p> <p>8月 防災スポーツハンドブック作成・納品</p> <p>9月1日 学校にチラシ配布および学校一斉配信メールにて周知</p> <p>9月1日</p> <p>～12日 いばらき電子申請システムにて参加者募集</p> <p>9月2日 関係団体に対し、運営協力依頼文書送付</p> <p>9月17日</p> <p>～18日 防災チャレンジイベント実施 (9世帯30名参加)</p> <p>9月18日 防災スポーツ事業実施 (プログラム参加者延べ約150名)</p> <p>10月 広報紙掲載</p> | | | |

本プログラムは、防災学習としての要素も含まれることから、子どもから高齢者まで年代問わず参加し、関係団体の方々が子どもたちにプログラムの概要を説明する中で、主体的かつ活発に参加者が競技に係わる様子が見受けられた。自主防災連絡協議会の会員には、民生委員や女性団体の関係者も含まれており、運営を行った関係団体以外への活動報告も行われ、同事業の目的や意義を広め、地域の団結を深めるきっかけになった。

事業の成果

写真1
キャットサイクルレース

2022/9/18



写真2
キャタピラエスケープ

2022/9/18



写真3
ゴーゴーキャリー

2022/9/18



写真4
防災知識トレーニング

2022/9/18



事業の写真
成果物等

写真5
キャタピラエスケープ

2022/9/18



写真6
ウォーターレスキュー

2022/9/18



本事業では、地域の自主防災活動の要である消防団や自主防災組織、防災士の活躍の場となることが明らかになった。併せて、子どもたちの防災学習としても身体を動かし楽しみながら、災害時に必要な行動知識を学べるということから、本プログラムを学校の防災教育として市内の公立小学校のカリキュラムに盛り込むことを検討していく。

今後の展開

| | | | | | |
|---------------|---|----------------|------------|-----------|--|
| 実施団体 | 埼玉県 越谷市 | 事業名 避難所開設訓練 | | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | ■ 防災訓練 | ■ 避難所運営 | □ その他 () | |
| | □ PR活動 | □ 環境整備 | □ 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | ■ 自主防災組織 | ■ 自治会(町内会) | ■ 学校 | |
| | □ 医療機関 | □ 事業所 | ■ 消防団 | □ 女性防火クラブ | |
| | □ 少年消防クラブ | □ 防災士会 | □ NPO | □ ボランティア | |
| | □ 社会福祉協議会 | | □ その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>本市は、埼玉県の南東部、都心から半径25km 圏内に位置し、大宮台地と下総台地に挟まれた利根川水系の中川流域における沖積平野で、標高差の少ない平坦な地形となっている。また、大半が、軟弱地盤地域であり、かつ、その層が厚いことに加えて、下位の洪積層の締まりも悪いことから地震災害を受けやすく、液状化が発生する可能性が高い地域でもある。さらに、人口は増加傾向にあり、年少人口、生産年齢人口の割合が減少する一方、高齢者人口の割合が増加している。</p> <p>災害時の避難所の開設・運営については、自主防災組織等が主体となって担っていくこととしているが、これまでの避難所の運営状況を見ると自主防災組織等の知識や経験不足などから行政が主体となって対応する場合もあり、本来目指すべき自主防災組織等による「共助」の体制が機能しない状況も想定される。</p> | | | | |
| 事業の目的 | <p>大規模災害時において、「公助」である行政自身も被害を受けていることが考えられることから、住民一人ひとりが、自分の身は自分で守る「自助」とともに、地域住民が互いに協力しながら組織的に防災活動に取り組む「共助」が重要である。</p> <p>大規模災害時に、「共助」の中核となる消防団員や自主防災組織等が主体となり、組織の枠を超えて連携し、円滑に避難所の開設・運営を行うことが必要となる。しかし、避難所の開設・運営に関する知識や経験不足から現状では、「共助」による円滑な避難所運営は困難である。そこで、市内の避難所において消防団員と自主防災組織等が顔の見える関係を築きながら、各避難所に合わせた内容の避難所開設訓練を実施し、円滑な避難所開設・運営、防災意識の向上及び地域防災力の強化を図ることを目的とした。</p> | | | | |
| 事業の概要 | <p>モデル地区を選定し、令和4年6月から令和5年2月までの間に地区内の指定避難所である学校6校において、消防団員と自主防災組織等の連携を目的とした避難所開設訓練を実施した。また、訓練会場となる避難所ごとに「避難所開設キット」を作成し、訓練の中でその手順書に沿って避難所開設の流れを座学形式で説明するだけでなく、段ボールベッドや間仕切り等、当市で備蓄している資機材の組み立てを体験することで、誰もが円滑に避難所の開設ができる実践的な内容とした。さらに、毎訓練ごとに参加者を対象としたアンケート調査を実施し、参加者の意見を踏まえ、訓練や避難所開設キットの内容などについて継続的に改善していくことで、より住民目線の内容としていくとともに、自主防災組織等が避難所開設・運営を自分事として考える意識を醸成した。</p> <p>なお、訓練は、民間事業者に業務委託し、委託先の専門知識やノウハウを活用した、より実践的な訓練とした。</p> | | | | |
| 事業の背景 | <p>本事業は、専門的な知識のない自主防災組織等が主体となって円滑に避難所を開設することができるよう、各避難所に合わせた「避難所開設に関する手順書」を作成し、避難所を開設する際に必要となる最低限の物品と併せて、避難所開設キットに格納した。</p> <p>避難所開設訓練は、「避難所開設に関する手順書」を活用して、発災から避難所の開設までの流れを理解するとともに、市で備蓄している資機材の組み立てを体験することで、より実践的な内容とした。また、訓練ごとにアンケートを集計することで、「避難所開設に関する手順書」の内容や訓練の進め方についても、訓練ごとにブラッシュアップを行い、グループワークの時間を増やすなど、参加者がより訓練に参画できるよう工夫しながら実施した。</p> | | | | |

本事業は、従来実施してきた場面ごとの断片的な訓練とは異なり、発災から避難所運営までの全体像を、避難所開設キットを活用しながら俯瞰的に理解する内容としたことで、訓練実施後の参加者へのアンケートでは、94%の訓練参加者が「避難所の開設に関する行動」をイメージすることができたと回答した。さらには、過去の事例等を挙げ、大規模災害時には「公助」である行政自身も被害を受けることが想定されることから、避難所の開設には自主防災組織等の協力が重要であることを説明したことで、95%の訓練参加者が「共助」の重要性を理解できたとの回答を得た。

以上のことから、「自助」「共助」に対する意識付けをはじめ、円滑な避難所開設・運営、さらには防災意識の向上及び地域防災力の強化を図ることができた。

事業の成果

写真1
訓練風景（座学）

2022/10/1

写真2
訓練風景（図上訓練）

2022/10/15



写真3
訓練風景（図上訓練）

2022/10/15

写真4
訓練風景（区画設定）

2022/11/12



事業の写真 成果物等

写真5
訓練風景（組立訓練）

2022/11/12

写真6
訓練風景（組立訓練）

2022/12/10



本事業は、「自助」「共助」に対する意識付けをはじめ、円滑な避難所開設・運営、さらには防災意識の向上及び地域防災力の強化を図ることができたことから、今後は、訓練対象地区を拡充し、越谷市全体の地域防災力の強化を図っていく。

また、避難所開設訓練を実施した指定避難所については、今後、避難所開設キットを活用し、自主防災組織等を主体とした訓練を継続的に実施することで、より円滑な避難所開設・運営が実現でき、更なる地域防災力の強化につながると思う。

今後の展開

| | | | | |
|---------------|--|----------------------------------|------------|-----------|
| 実施団体 | 東京都 東村山市 | 事業名 令和4年度地域との連携促進に伴う避難所運営研修事業 | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | □ 防災訓練 | ■ 避難所運営 | □ その他 () |
| | □ PR活動 | □ 環境整備 | ■ 組織の設立 | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | ■ 自主防災組織 | ■ 自治会(町内会) | □ 学校 |
| | □ 医療機関 | □ 事業所 | □ 消防団 | ■ 女性防火クラブ |
| | □ 少年消防クラブ | □ 防災士会 | □ NPO | □ ボランティア |
| | □ 社会福祉協議会 | ■ その他 (民生委員、PTA) | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>①現状において、自主防災組織と避難所運営連絡会がそれぞれ独自の活動を行っている状況であること、また、自主防災組織及び避難所運営連絡会の人員不足が顕著であり、各組織のリーダーとなる人材が少ない。</p> <p>②平日日中に発災した場合、各避難所には子育て世代の女性が多く避難することが想定されることから、子育て世代の女性の避難所開設直後における避難所運営への協力が必要不可欠となるが、自主防災組織及び避難所運営連絡会はそれぞれ子育て世代の女性の不足が顕著であるため、女性リーダーの育成も困難となっている。また、子育て世代の女性が不足していることに伴い、避難所運営連絡会において女性視点を踏まえた避難所運営についての検討も不十分な状況である。</p> <p>③障害のある方、子ども、妊産婦や乳幼児、高齢者、ペットを持つ方、外国人、性的マイノリティ (LGBTQ等) の方、帰宅困難者等の視点等、多様な避難者が避難してくることが想定されるが、彼らに配慮した避難所の対応方法や施設利用計画等の検討についても不十分な状況である。</p> <p>④令和3年度に上記②③の課題を考慮して作成した「多様な視点からの避難所運営ガイドライン・マニュアル (ひな形)」を作成したところであるが、これを活用した訓練を行っていないため、マニュアルの有効性を計れていない。</p> | | | |
| 事業の目的 | <p>上記の①、②の課題を解決するため、避難所運営連絡会及び自主防災組織から、避難所運営や防災活動の核となる地域防災リーダーを育成するとともに、当該地域防災リーダーに対し、多様な視点を持った避難所運営や防災活動について意識付けを図る必要がある。</p> <p>上記の観点から、住民 (自主防災組織及び避難所運営連絡会委員等) に対しては、多様な視点からの避難所運営に対する課題や対策等について学んでいただくために研修を実施したい。</p> <p>また、上記③、④の課題を解決するため、既存の避難所運営マニュアルについても障害のある方、子ども、妊産婦や乳幼児、高齢者、ペットを持つ方、外国人、性的マイノリティ (LGBTQ等) の方、帰宅困難者等の視点が重要である。例えば、妊産婦や乳幼児のために専用スペースを確保したり、性的マイノリティ (LGBTQ等) の方でも使いやすいようにトイレの表示を男女兼用にする等、多様な視点を盛り込んだ内容に修正する必要がある。令和3年度には、市職員の有志から構成される「避難所運営マニュアル (多様な視点からの避難所運営編)」 (素案) 作成検討会で、多様な視点を盛り込んだ避難所運営ガイドライン・マニュアル (ひな形) を作成した。こちらのマニュアル (ひな形) を基に各避難所に合った避難所運営マニュアルを検討・作成していく。</p> | | | |
| 事業の概要 | <p>①令和4年度避難所運営研修「多様な視点からの避難所運営研修」 (対面研修) 実施 【対象】避難所要員 【実施内容】令和3年度に作成した「ガイドライン・マニュアル」の内容説明。 ・避難所の役割 ・避難所の運営体制 等</p> <p>②令和4年度避難所運営研修「多様な視点からの避難所運営研修」 (対面+オンライン研修) 実施 【対象】地域住民 【実施内容】「ガイドライン・マニュアル」の内容説明。 ・多様な視点の必要性 ・「避難所運営」の全体像 等</p> <p>③モデル避難所での「多様な視点からの避難所運営マニュアル」検討会実施 【対象】住民 (自主防災組織及び避難所運営連絡会委員等)、避難所要員、学校職員 【実施内容】「ガイドライン・マニュアル」の内容説明動画を作成後、代表となる避難所運営連絡会を定め、動画を活用し集中的に検討会を実施した。</p> <p>④「ガイドライン・マニュアル」の内容説明動画の掲載を実施 【実施内容】上記②、③の実施に伴い作成した内容説明動画を、市広報媒体に掲載した。</p> | | | |
| 事業の背景 | <p>①自主防災組織や避難所運営連絡会の人員不足・人材育成不足とともにそれぞれが独自の活動を行っている、②子育て世代の不足や女性防災リーダーの不足、③多様な避難者へ配慮した避難所運営方法の検討不足、④令和3年度に「多様な視点からの避難所運営ガイドライン・マニュアル (ひな形)」を作成したところであるが、これを活用した訓練を行っていないため、マニュアルの有効性を計れていないという当市の課題を背景に、障害のある方、子ども、妊産婦や乳幼児、高齢者、ペットを持つ方、外国人、性的マイノリティ (LGBTQ等) の方、帰宅困難者等の視点等を盛り込んだ、多様な視点からの避難所運営研修を住民向けに対面+オンラインのハイブリッド形式で実施し、避難所での多様な視点の重要性及び対応方法について学んでいただいた。また、「ガイドライン・マニュアル」の内容説明動画を作成後、代表となる避難所運営連絡会を定め、動画を活用し集中的に避難所運営マニュアル検討会を実施した。</p> | | | |

<住民向け研修>

住民向けに実施した研修は初めて対面+オンラインのハイブリッド形式で実施した。多様な視点の必要性や避難所運営の全体像について等、多様な視点からの避難所運営について具体的に学ぶことで、多様な視点を持った避難所運営や防災活動への理解を深めるとともに、避難所における多様な視点の重要性を具体的に学ぶことができた。

<市職員向け研修>

「ガイドライン・マニュアル」の内容について研修を行うことで、従来のガイドライン・マニュアルとの変更点や新規項目追加の背景、果たすべき役割の説明等について学び、避難所運営における「多様な視点」の必要性について理解を深めることが出来た。また、避難所運営マニュアル改定の足掛かりとする意識付けを行うことが出来た。

事業の成果

写真1

2023/1/17

写真①



写真2

2023/1/17

写真②



写真3

2023/1/17

写真③



写真4

2023/1/17

写真④



事業の写真
成果物等

写真5

2023/1/31

写真⑤



写真6

2023/1/31

写真⑥



<令和5年度>

住民へ勉強会を実施し、「多様な視点からの避難所運営」について理解を深めるため、図上訓練等を用いて研修・ワークショップを実施する。避難所要員向けも勉強会を同様に実施する。その後、実際に避難所運営をする各避難所の住民（研修に参加している地域防災リーダーや避難所運営連絡会委員、自主防災組織）及び避難所要員及び学校職員が協働して、避難所ごとの多様な視点からの避難所運営マニュアルの検討を進める。

今後の展開

| | | | | | |
|---------------|--|------------------------------|------------|-----------|--|
| 実施団体 | 新潟県 津南町 | 事業名 地域及び多様な防災組織による避難所運営訓練 | | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | □ 防災訓練 | ■ 避難所運営 | □ その他 () | |
| | ■ PR活動 | □ 環境整備 | □ 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | □ 地方公共団体 | ■ 自主防災組織 | ■ 自治会(町内会) | □ 学校 | |
| | □ 医療機関 | □ 事業所 | ■ 消防団 | □ 女性防火クラブ | |
| | ■ 少年消防クラブ | □ 防災士会 | □ NPO | □ ボランティア | |
| | □ 社会福祉協議会 | | □ その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>津南町の人口は令和2年の国勢調査で8,992人と前回調査時の10,029人から1,000人以上減少している。また、令和4年4月1日現在の高齢化率は約42%と高齢化も顕著である。</p> <p>信濃川の脇を山地や谷地が囲む環境にあり、地震や風水害が発生リスクの高い災害として想定されるほか、土砂災害も想定される。また、降雪積雪期には雪による複合災害も想定される。</p> <p>以上の地域特性から、地域住民等が防災力向上に積極的に取り組む必要があるが、避難所運営訓練など地域住民が災害時に実践することが想定されるような訓練等を実施できず、地域住民の防災力向上の機会が少ないことが課題である。</p> | | | | |
| 事業の目的 | <p>地域住民の防災活動への参画が行えていない点や防災力向上の機会が少ない点などの課題に対し、多様な防災組織等（自主防災組織、少年消防クラブ、消防団など）が連携して、災害時の衛生対策などに関する訓練や啓発活動を行い、災害時における衛生対策への意識醸成を目指す。</p> | | | | |
| 事業の概要 | <p>避難所運営に携わることが想定される防災組織等（自主防災組織、少年消防クラブ、消防団）を中心に避難所の運営体制、運営方法や避難所における感染症対策など避難所における衛生管理に関する勉強会やワークショップ等を開催。</p> <p>勉強会やワークショップ開催後、訓練を実施。避難所における、手指消毒や検温、避難者の体調状況の確認など感染症対策を意識した内容の実践。</p> <p>少年消防クラブの団員が、災害時や避難所における衛生対策（トイレの整備の重要性や適正な利用方法等）を事前に学び、防災訓練において発表することで、次代を担う消防団員や防災リーダーの育成、各種感染症対策やエコノミークラス症候群等への対応に関する啓発を行った。</p> <p>訓練後には、衛生対策（災害時のトイレの利用方法等）のチラシを町内全戸約3,500世帯に配布し災害時の衛生対策の啓発もあわせて行った。</p> | | | | |
| 事業の背景 | <p>地域住民が防災活動への参画が十分でない点、災害時の避難所における感染症対策の観点の不十分であることから、防災組織等との連携が重要であると考えている。</p> <p>こうした中、地域での防災活動に積極的に参画している少年消防クラブを中心とし、クラブが過去の活動からトイレの整備や感染症対策等の避難所における衛生管理は大きな課題であると捉えていることから、災害時の衛生対策等への対応に関する啓発活動を行えるよう取組を進めた。</p> | | | | |

訓練を地域及び防災組織等が協同で実施することで、災害時における衛生対策への意識醸成がされた。

また、少年消防クラブによる災害時の衛生対策に関する事例発表および啓発活動により、クラブ団員自身の防災意識や知識の向上など、地域での防災活動への更なる寄与につながったほか、全町への防災意識の向上などが図られた。

一方、新型コロナウイルス感染症禍ということもあり、当初予定していた地域住民の参加については調整を要するなど、周知不足や準備等がうまくいかなかった。

今後、社会状況等も考慮し、早期の参画・協力要請や周知を心がけたい。

事業の成果

写真1 2022/10/22
タイトル 笹沢少年消防クラブ訓練勉強会①



写真2 2022/10/22
タイトル 笹沢少年消防クラブ訓練勉強会②



写真3 2022/10/29
タイトル 笹沢少年消防クラブ訓練勉強会③



写真4 2022/10/30
タイトル 外丸集落訓練①



事業の写真 成果物等

写真5 2022/10/30
タイトル 外丸集落訓練②



写真6 2022/10/30
タイトル 防災組織等訓練参加者自己紹介



実施成果でもあげたように、訓練を地域及び防災組織等が協同で実施することで、災害時における衛生対策への意識の醸成がされたことから、今後、本事業で実施した内容をモデルケースとし他の地域でも展開していきたい。

また、少年消防クラブは啓発活動を通して、クラブ団員自身の防災意識や知識の向上などにつながったことから、少年消防クラブと連携し、全町での防災意識向上への活動や事業展開につなげたい。

今後の展開

| | | | | | |
|------|------------|-----|------------------------|--|--|
| 実施団体 | 愛知県 豊橋市 | 事業名 | 豊橋市防災リーダー育成・強化支援事業 第2弾 | | |
|------|------------|-----|------------------------|--|--|

| | | | | |
|---------------|--|-------------------------------|--------------------------------|-----------|
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 | <input type="checkbox"/> 防災訓練 | <input type="checkbox"/> 避難所運営 | □ その他 () |
| | <input type="checkbox"/> PR活動 | <input type="checkbox"/> 環境整備 | <input type="checkbox"/> 組織の設立 | |

| | | | | |
|---------------|--|---|---|--|
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 | <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 | <input type="checkbox"/> 自治会(町内会) | <input checked="" type="checkbox"/> 学校 |
| | <input type="checkbox"/> 医療機関 | <input type="checkbox"/> 事業所 | <input type="checkbox"/> 消防団 | <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ |
| | <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ | <input type="checkbox"/> 防災士会 | <input checked="" type="checkbox"/> NPO | <input type="checkbox"/> ボランティア |
| | <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(とよはし防災リーダー、高校生防災リーダー) | | |

地域の
特性・課題

○本市状況
・南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域に指定
・南海トラフ地震防災対策推進地域

○課題
平成20年度から現在までに延べ1,000人以上の防災リーダーを育成してきましたが、その多くは、地域での防災活動に関わることが少なく、地域自主防災活動は主として地元自治会により担われているため、防災リーダーが地域自主防災活動に十分に活かされていないという課題があります。また、地域によって自主防災活動に対する積極性に違いがあること、自主防災活動に関わる人材が高齢化していること、若者や女性の地域自主防災活動への参加が少ないことなどの課題があります。

事業の目的

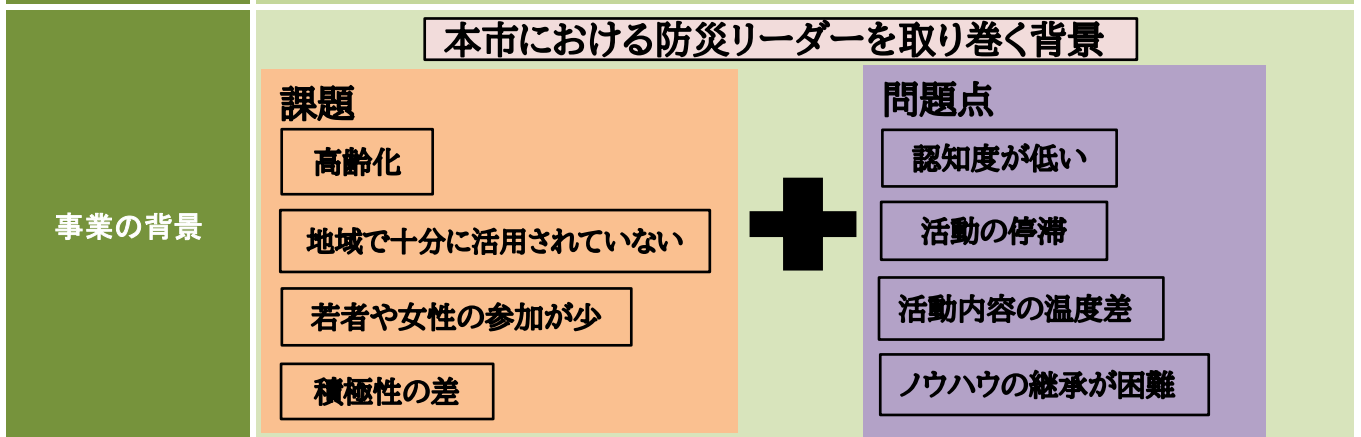
防災リーダーのさらなる知識・技術・意欲向上のため、高校生防災リーダー育成のため、異なる年代の防災リーダーが企画立案・運営を行う防災キャンプを実施することで、地域自主防災力の強化を図ることを目的とします。また、若者や女性がイベントに興味を持ち、参加しやすい工夫をすることで、地域自主防災活動への参加を促します。

事業の概要

①防災リーダーのさらなる育成・強化
さらなる防災リーダーの能力強化を図り、地域自主防災活動で積極的な役割を担ってもらうため、さらには防災活動に若者や女性を取り入れるために、被災未経験の多くの方がイメージしにくい被災後の避難生活を生き抜くための知識や技を身につけるボウサイマンZキャンプを企画立案・運営します。また、避難生活期の知識や技術に対するノウハウの乏しさを補うため、防災教育について実績のあるNPO法人プラス・アーツの支援を受けて実施します。また実施後も、市独自の内容に検討・開発するためワークショップを実施します。

②高校生防災リーダーによるアオハル防災キャンプ
令和3年度にわかば議会提案防災キャンプに携わった高校生を中心に、防災キャンプを企画立案・運営します。高校生自らがプログラムを考え、高校生に指導するアオハル防災キャンプを通じて災害時に地域のために率先して活動することができる人材を育成します。

③オリジナルキャラクターの作製
①は、地域の独自性を取り入れた内容で持続的な実施を検討していることから、キャラクターを通して防災キャンプや防災リーダーの認知度向上や類似事業との差別化、ターゲットとなる若者や女性とのコミュニケーション促進を目的にオリジナルキャラクターを作製します。



① ボウサイマンZキャンプ・・・事前学習した防災リーダーが、参加者にプログラムを指導することで、防災知識・技術の定着を図ることができた。また、参加した防災リーダーが中心となって次年度に実施予定の「豊橋版プログラム」へのブラッシュアップを行うことができた。
 ② アオハル防災キャンプ・・・高校生が内容を企画運営したことで、イベントを通して防災意識が向上し、市主催の総合防災訓練に参加したり、学園祭で防災啓発コーナーを設けたりと、参加後も自発的・継続的な防災活動に取り組む学生もいた。
 ③オリジナルキャラクターの作製・・・②の実行委員の高校生を中心に、コンセプト、図案、活用方法に至るまで複数の案が提案され、高校生の意見を多く取り入れたキャラクターが作製できた。

事業の成果

写真1 2022/10/29
段ボールで避難所での部屋作りをする親子



写真2 2022/10/30
物資搬送リレーをする参加者や防災リーダー



写真3 2022/7/28
避難所運営ゲーム (HUG) をする高校生



写真4 2022/7/29
自分で作った新聞スリッパを履く高校生



事業の写真
成果物等

写真5 2022/11/9
ハッシーくんを着用した様子 (前・後ろ)



写真6 2022/12/17
子どもに大人気のハッシーくん



① ボウサイマンZキャンプ・・・考案した「豊橋版プログラム」を次年度に実施する。また、周知の方法や募集方法など多くの人が参加できるよう工夫する。
 ② アオハル防災キャンプ・・・「高校生が防災に触れる貴重な機会」となっているため、①と同様、継続的に実施していく。
 ③ オリジナルキャラクターの作製・・・市主催のイベントや多くの人が集まる啓発イベントに出演することで、SNS等の広報媒体を通じて広く市民に広報していく。

今後の展開

| | | | |
|---------------|--|-------------------------|--|
| 実施団体 | 滋賀県 大津市 | 事業名 消防団・自主防災組織連携促進事業 | |
| 取組分類 (該当■) | <input type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> 防災訓練 <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> PR活動 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input checked="" type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>令和5年2月1日現在における当市の人口は344,275人、155,766世帯、大津港と東海道の宿場町、城下町、門前町等を中心に古くから交通の要衝として栄え、近年は、琵琶湖や比良山地などの豊かな自然環境のもと、京阪神地区のベッドタウンとして発展してきた。琵琶湖西岸断層帯や東南海・南海地震による甚大な被害が想定されている。</p> <p>琵琶湖西岸断層帯や東南海・南海地震による甚大な被害が想定されているが、長期間にわたって大規模地震による被害が発生していないことから、自主防災組織等の住民の防災意識や、自主防災組織と消防団の連携状況については地域差が大きく、地勢と各防災組織の情勢等に応じた連携体制の構築が課題である。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>近年の想定を上回る大規模な自然災害の発生状況から、限界のある公助だけに頼るのではなく、普段から地域で支えあう連携体制の構築が必要であることから、当市では、地域の自助・共助能力の向上を目的に、学区自主防災組織と消防団が主体となった防災関係団体の更なる連携の促進を支援する。</p> <p>また、上記の連携に加えて、コロナ禍においても実施が可能な防火・防災広報を継続することで市民の防火・防災意識の高揚を図ることを目的とする。</p> | | |
| 事業の概要 | <p>(1) 連携強化会議の開催 学区自主防災組織と消防団が連携し、他の防災組織と地域の防火・防災上の課題を共有する連携強化会議を開催するとともに、自主防災組織が主催する防災訓練等の企画段階から消防団が参画する体制を構築する。</p> <p>(2) 女性防火クラブの活性化 女性防火クラブの活性化に向けて、外部有識者を交えて、時代に即した持続可能な女性防火クラブのあり方について検討する。</p> <p>(3) 消火体験装置の導入 防火・防災訓練時に、実際に火炎を使用した資器材を導入することで、効果的に市民の防火・防災意識の高揚を図り住宅火災の減少に繋げる。</p> <p>(4) 若年層に対する消防団及び自主防災組織への理解促進 消防団及び自主防災組織と連携し、小学生への補助教材を新規に作成し、消防団及び自主防災組織への理解を推進する。</p> | | |
| 事業の背景 | <p>当市では、阪神淡路大震災を契機に全36小学校区に学区自主防災組織が設立され、自治会を単位とする地域自主防災組織と連携した自主的な防火・防災活動が展開されている。</p> <p>また、平成24年度から令和3年度までに約760名の防災士を養成するとともに、防災士と同等の教育カリキュラムを修了した現役消防団員約600名を地域防災指導員として任命し、地域の防火・防災訓練等で活躍している。</p> <p>しかし、想定外の自然災害に備えるためには、これまで別々に養成してきた組織(学区自主防災組織と消防団)と人材(防災士と地域防災指導員)の連携体制を構築し、双方が活動を補完し合うことが、地域防災力の強化に必要不可欠であることから、上記に掲げる事業を実施した。</p> | | |

市内の16学区において、学区自主防災組織と消防団を中心とした防災関係団体による連携強化会議等の取組を実施し、地域防災力の充実強化を図ることができた。
 令和3年度に整備した消火体験装置1台に加えて、今年度3台を増設し、市内4消防署へ配備したことにより、大津市内全域で火を使用した訓練を実施できる体制作りができた。
 若年層の消防団・自主防災組織に対する理解促進を目的として、消防団・自主防災組織の概要を紹介するクリアファイルを作成し、市内小学3年生、4年生に配布した。

事業の成果

写真1
 連携強化会議の様子①



写真2
 連携強化会議の様子②



写真3
 女性防火クラブあり方検討会の様子①



写真4
 女性防火クラブあり方検討会の様子②



事業の写真
 成果物等

写真5
 女性防火クラブ員の火を用いた訓練の様子



写真6
 小学生向けクリアファイル



令和3年度から開始した連携強化に関する取り組みについては、昨年度の6学区に引き続き、今年度は10学区において連携強化の取り組みを開始した。次年度以降も事業を継続し、令和6年度までに市内全36学区への連携強化の取り組みを開始予定。
 若年層の消防団・自主防災組織の理解促進を継続して図るとともに、上記連携強化の取り組みに教育機関の参加を推進し、防火防災教育にもつなげていく予定。

今後の展開

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 実施団体 | 京都府 京都市 | 事業名 自主防災組織等が連携したワーキングを踏まえた「自主防災部活動ファイル」のリニューアル | |
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> 防災訓練 <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> PR活動 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 事業所 <input type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>本市の自主防災組織での課題は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症への対応と活動方法 ・ 地域コミュニティの希薄化 ・ 担い手不足の解消 ・ 災害弱者への対応 ・ 災害時要支援者名簿の更なる活用 等 | | |
| 事業の目的 | <p>令和3年7月及び11月に自主防災組織、消防団、防災士、有識者、関係局が参画する検討会を実施し、自主防災組織が抱える課題や社会情勢等を踏まえて検討された結果を反映させ、自主防災組織の災害時の防災行動マニュアルを作成するためのガイドラインを改訂した。</p> <p>市内の自主防災組織に周知する必要があることから、各町内単位で組織された自主防災部に配布している「自主防災部活動ファイル」についてもリニューアルし、持続可能な自主防災組織の運営に関する課題解決と地域防災力の向上を図るもの。</p> | | |
| 事業の概要 | <p>一昨年度から新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴う活動の自粛や制限がされることとなり、自主防災組織の在り方も変化が生じてきた。</p> <p>京都市では、この社会情勢を踏まえた活動や防災行動の更なる見直しを図るため、令和3年度に、自主防災組織、消防団、防災士、有識者、関係局が参画し、自主防災組織の活動や運営についての課題等を検討する「自主防災活動検討ワーキング」を実施した。</p> <p>検討ワーキングでの結果や自主防災組織へのアンケートなどの意見を取りまとめ、新たな時代における自主防災活動の在り方を示した防災行動等の指針となるガイドラインを作成した。本ガイドラインに掲載している防災行動等を各町内単位で組織される自主防災部にまで浸透させるため、各自主防災部に配布している、「自主防災部活動ファイル」をリニューアルし、地域防災力の更なる向上を図る。</p> | | |
| 事業の背景 | <p>阪神・淡路大震災以後、地震に重きを置いた自主防災組織運営を経て、平成25年の台風第18号やそれ以降の水災害、土砂災害の経験を基に、災害に応じた自主防災組織の活動を進めてきた。</p> <p>令和2年度及び令和3年度は、コロナ禍における活動の自粛や制限がされる中、訓練や研修等に防災行動の見直しが求められるなど、各自主防災会が持つ課題を解決すべく、自主防災組織、消防団、防災士、有識者、関係局で検討会を実施した。時代の変化とともに生じた自主防災活動の課題点を踏まえ、既存の「自主防災部活動ファイル」をリニューアルし、町内単位の自主防災組織である自主防災部に配布し、現状に応じた指導をすることにより、顔の見える範囲である町内単位から地域防災力の向上を図ることにつながる。</p> <p>また、今後の自主防災活動の指針として、京都市のみならず、全国で活動している自主防災組織にも参考としてもらえる。</p> | | |

令和3年度に自主防災会（学校区単位）において地域の防災上の課題について検討し、持続可能な自主防災組織運営に関する課題解決と防災行動の見直しを図り、自主防災会のみならず、自主防災部（町内単位）に向けた資料を作成することは、京都市内の約6,300自主防災部の指針となり、現在新型コロナウイルス感染症に影響により、停滞している自主防災活動を補えるとともに、今後の活動の活性化を図ることができる。

事業の成果

写真1

自主防災部活動ファイル

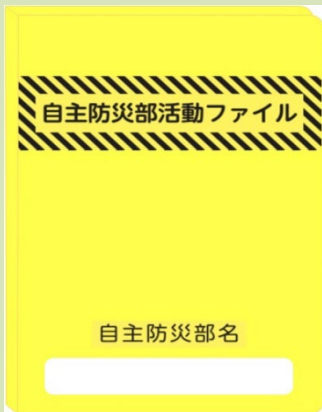


写真2

土砂災害発生までの流れと主な活動

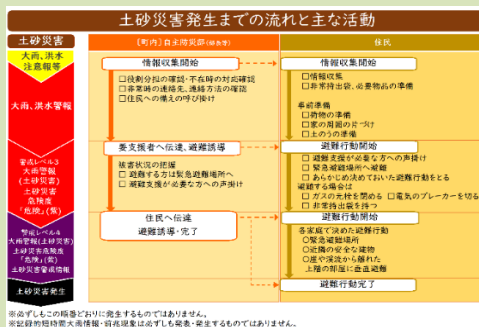


写真3

防災行動シート【土砂災害】

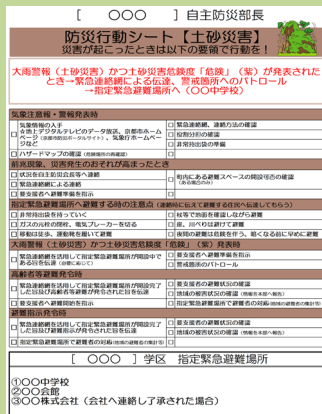
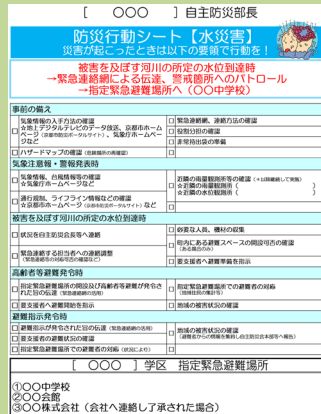


写真4

防災行動シート【水災害】



事業の写真
成果物等

写真5

避難基準表

| 避難基準 | | 避難基準 | |
|-------------------------|--------------------|----------------------------|---------------------|
| ○深水・自宅の建物状況による避難基準(水災害) | | ○指定地域・自宅の建物状況による避難基準(土砂災害) | |
| 河川沿いの家屋 | 平屋建て | 崖地・深流沿いの家屋 | 平屋建て |
| 浸水深5m以上 | 緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難 | 土砂災害特別警戒区域 | 緊急避難場所、区域外の安全な建物へ避難 |
| 浸水深3~5mまで | 緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難 | 土砂災害警戒区域 | 緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難 |
| 浸水深50cm~3mまで | 緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難 | それ以外の地域 | 緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難 |
| 浸水深50cm未満 | 緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難 | | 自宅に待機 |

避難の時機を失した場合は、自宅内や崖や深流から離れた上流の部、近隣の丈夫な建物へ避難します。

写真6

京都市自主防災会連絡会，各行政区の自主防災会連絡会を通じて，自主防災組織に関する情報共有等の体制が整っており，毎年，防災行動マニュアルの見直しを行っている。また，消防署には，各自主防災会の担当者を配置しており，新たな訓練や研修を実施し，その地域事情に合わせた新たな体制づくりを推進していく。

今後の展開

| | | | |
|---------------|---|---------------------------------------|--|
| 実施団体 | 大阪府 八尾市 | 事業名 WEBラーニングを活用した防災リーダー養成講習の実施について | |
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> 防災訓練 <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> PR活動 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>本市の地形は、東部の生駒山地と西部の河内平野に大別される。市域の特性は、西部地域は、交通の利便性を生かした都市活力ゾーンであり、工業地、住宅地等が広がる。中央部の地域は、近鉄八尾駅周辺を中心市街地として住宅、商業、工業地域で構成される。東部地域は、農業と住宅が調和する田園住宅地域であるとともに、山地の自然広がるゾーンである。南部地域においては、ヘリコプター等の小型機専用空港となる八尾空港や陸上自衛隊八尾駐屯地がある。課題として「自助」と「共助」、「公助」のそれぞれが力を合わせながら、防災意識・行動を日常のものとする防災文化を育む中で、地域の防災力・減災力を高めていく必要がある。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>八尾市消防署では、平成14年度より防災リーダー育成研修会を実施し、また、令和元年度より防災リーダー養成講習を消防署企画で開始したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年度にわたり計画どおりに養成講習実施ができず、防災リーダー養成に歯止めがかかっている。</p> <p>今後収束のメドが立たない新型コロナウイルス感染症に対応した方式とするため、従来の集合型研修方式を抜本的に改正することで、防災リーダー養成者数を恒常的かつ安定的なものとする必要がある。</p> <p>また、講習形態の利便性を向上することで、自主防災組織に、今まさに必要とされる人材である、若い世代や女性などの受講者発掘を行う必要がある。</p> | | |
| 事業の概要 | <p>WEBラーニングを活用した防災に関する講習会や実技指導等を実施することで個人の防災知識・技術の習得を促進し、研修修了者が中心となって各地域における防災意識の啓発・防災活動を活性化させることにより、自主防災組織等の拡大と充実を図り、もって地域防災力の向上に努める。</p> <p>災害に関する知識及び防災対策に関する制度並びに災害時応急対策の実践に関する基礎的知識、技術を習得することにより、地域住民に対して、防災・減災対策について、周知・啓発・指導することができる人財を養成する研修を複数科目行い、基準以上の講習を受講した修了者は、八尾市 防災リーダーとして登録し、自主防災組織又はその他の団体が実施する訓練に積極的に防災リーダーとして参加してもらうとともに、市民への防災・減災対策について普及啓発活動等を行う。</p> | | |
| 事業の背景 | <p>八尾市では、平成14年度より1日完結型の防災リーダー育成研修会を実施しており、現在まで1,159名の防災リーダーを育成してきた。また令和元年度からは、今までの1日完結型の防災リーダー育成研修会では、習得することが出来なかった実践的なプログラム、避難所運営ゲームHUG、クロスロード研修に加え、普通救命講習、市防災訓練への参加等、多彩なカリキュラムで構成し、複数日に分けて開催し、地域で即活躍できる防災リーダー養成講習を行い69名が修了した。</p> <p>この事業は継続実施し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となるが、令和3年度は43名の募集があり養成講習を開始し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、途中規模縮小となるが11名(再受講者優先)の修了者を養成した。</p> <p>令和元年度より開始した先進的取り組みも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年度にわたり計画どおりに養成講習実施ができず、防災リーダー養成に歯止めがかかっている。</p> | | |

大阪府では長期化する新型コロナウイルス感染症拡大により、令和4年度中は、緊急事態宣言等の行動制限は発令されなかったものの、各種講習会への参加者を満足に応募できるような状況ではなかった。
 しかし、このような状況下でも、令和3年度の防災リーダー養成講習の修了者32名を大きく上回る、93名に防災リーダー養成講習を実施した。また、講習形態を変化させることで利便性を高めることで、多様な市民に講習を実施できた。

事業の成果

写真1 2022/10/1
QRコード付 視聴用パンフレット

防災リーダー養成講習
YouTube視聴案内

1 地震災害とわがこと意識
<https://youtu.be/CXECqWWSdvq>

2 災害時の心理
～発見とストレス
<https://youtu.be/MrYbCjUkIdIA>

3 同本流地域の防災対策
身近な取り組みで防災アップ
<https://youtu.be/DX4gFC0WqHY>

4 同本流地域の防災対策
今できること、考えよう
<https://youtu.be/p2TZBCIVPbo>

5 ウェアラブルカメラを
用いた防災マップ
<https://youtu.be/b81G2pu6yMg>

6 男女共同参画の視点
に基づく避難所運営
https://youtu.be/1hieM17D_BU

写真2 2022/8/7
WEBラーニング 「避難スイッチ」

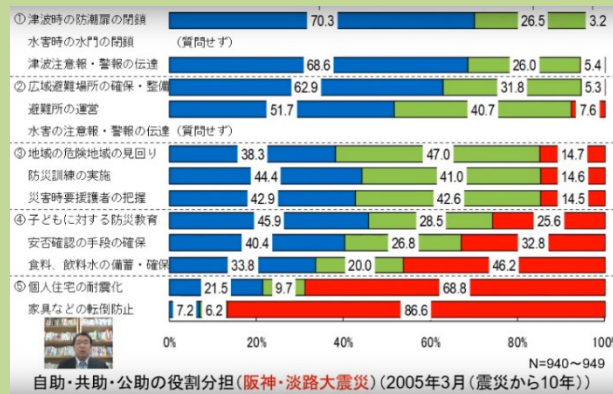
避難について考えるときに大事な
たった2つのこと

避難スイッチ セカンドベスト

- ・「初めに浸かったのがスイッチに」(福岡県朝倉市)
- ・東北豪雨(2017年)：「前年の岩手県のゲルブホー」
- ・西日本豪雨：京丹波町の「お堂」→集落内、近所に「セカンドベスト」(改善：100点満点でなくても60点とれる場所)も見つける行政の指定する避難場所もちろん大事

写真3 2022/8/4
WEBラーニング 「地震災害とわがこと意識」

写真4 2022/8/18
WEBラーニング 「今できること、考えよう」



地域に託された3つの役割

- ① コミュニティーを構築(共助)
- ② 組織連携で減災を実現
- ③ 家庭防災の啓発

事業の写真
成果物等

写真5 2023/1/15
防災実技指導

写真6 2023/1/15
防災実技指導実践



来年度以降もこの形式で防災リーダー養成講習会開催を継続していくことで、工夫を重ねることにより、更なる利便性向上や子育てや介護など自主防災活動に参加しにくい市民について、防災リーダーとしての可能性を生み出し、新たな受講者の発掘を行っていきたい。
 また、男女を問わずあらゆる世代層の防災リーダーを継続的に養成することで、防災意識が薄れないまちづくりのための人材育成を行い、新しい情報発信により、組織を活性化することで、形骸化した自主防災組織から脱却し、更なる地域防災力の向上を目指す。

今後の展開

| | | | | | | | |
|---------------|--|-----|--------------|--|------------|--|-----------|
| 実施団体 | 兵庫県 神戸市 | 事業名 | 神戸BOKOMIフェスタ | | | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | | ■ 防災訓練 | | ■ 避難所運営 | | □ その他 () |
| | □ PR活動 | | □ 環境整備 | | □ 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | | ■ 自主防災組織 | | □ 自治会(町内会) | | ■ 学校 |
| | □ 医療機関 | | □ 事業所 | | ■ 消防団 | | □ 女性防火クラブ |
| | ■ 少年消防クラブ | | ■ 防災士会 | | ■ NPO | | ■ ボランティア |
| | □ 社会福祉協議会 | | □ その他 () | | | | |
| 地域の 特性・課題 | 神戸市では、阪神・淡路大震災から27年が経過し、震災の経験と教訓を次世代に伝えることが課題となっており、また、阪神・淡路大震災を契機に結成された、自主防災組織（防災福祉コミュニティ）も年々高齢化が進み、震災経験の次世代への継承と地域の共助を担う新たな人材の確保が課題となっております。 | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>阪神・淡路大震災から得た教訓を次世代につなぐため、若者を中心に様々な世代が防災に触れるきっかけを作り、地域の防災活動への参加や地域の共助を担う人材を育成し、地域防災力の向上を目指します。</p> <p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 若者の防災への取り組みを披露する。 2 地域の防災活動に参加してもらう。 3 神戸で起こりうる災害を模擬体験してもらう。 4 親子で楽しく防災を学んでもらう。 | | | | | | |
| 事業の概要 | <p>阪神・淡路大震災から得た教訓を次世代につなぐため、若者を中心に様々な世代が防災に触れるきっかけを作り、地域の防災活動への参加や地域防災力の向上を図ることを目的に令和4年10月30日に神戸BOKOMIフェスタを神戸学院大学ポートアイランド第1キャンパス（神戸市中央区港島1-1-3）内にて実施しました。</p> <p>会場では、4種類（防災競技大会・災害模擬体験・防災関連展示・子ども向け防災体験）のブースや、自主防災組織のリーダーへの研修、航空機動隊による訓練展示、消防艇による放水、消防音楽隊によるコンサートなどを行い、約3,000の方が来場されました。</p> | | | | | | |
| 事業の背景 | <p>神戸市では、平成7年から概ね小学校区ごとに自主防災組織（名称：防災福祉コミュニティ）が結成され、市内全域192か所で結成されています。自主防災組織への支援として、組織全体をまとめることができるリーダーの養成を目的とした研修を平成26年度から実施しています。</p> <p>また、自主防災組織へ若い世代の参加を進めるため、平成9年から少年消防クラブ（名称：防災ジュニアチーム）が結成され、現在、21チーム結成されています。このチームは小・中学生を主体とし、自主防災組織が指導を行っております。</p> <p>昨年度、神戸市の参画する実行委員会主催の防災イベント「神戸防災のつどい2022」の中で、「次世代を担う若者による防災のつどい」を開催し、少年消防クラブの活動の発表を行いました。活動発表について、参加者の若者からも好評であり、今後の活動への意欲にも繋がるとの意見もあり、より活発に活動を行うために、今年度も引き続き防災イベントを実施する必要があった。</p> | | | | | | |

イベントを通じ、幅広い世代の多くの方々に防災への興味や関心を持つ契機を設けることができた。（特に、子育て世代に積極的なイベント参加を呼び掛けた結果、多くの方々に参加していただくとともに、「親である大人も日頃意識しない防災について考える機会となった。」などの声をいただき、子育て世代の防災意識の向上に寄与した。）

また、自主防災組織（防災福祉コミュニティ）への研修の中で、防災競技大会を見学していただき、学生の防災活動について啓発することができた。（防災競技大会を見学した自主防災組織の方から、「自分たちの地域でも少年消防クラブ（防災ジュニアチーム）を結成したい。」などの声もあった。）さらに、少年消防クラブ員は、防災競技大会へ参加するための訓練を通じ、防災に関する技術や知識を向上させることができた。加えて、参加者からは、活動意欲の向上に繋がったとの声もあがるなど、次世代の防災を担う少年消防クラブ員の育成にも役立った。

事業の成果

写真1
防災競技大会

2022/10/30

写真2
防災マネジメント研修

2022/10/30



写真3
防災関連展示

2022/10/30

写真4
子ども向け防災体験

2022/10/30



事業の写真 成果物等

写真5
災害模擬体験

2022/10/30

写真6
消防音楽隊コンサート

2022/10/30



新たな少年消防クラブ（防災ジュニアチーム）の結成を希望する地域には、積極的な支援を実施していく。（今回のイベントにおける啓発等を通じ、新規結成を希望する声もあり）

また、今回、BOKOMIサポーターの紹介を行い、積極的なBOKOMIサポーター制度の利用促進を呼び掛けた。今後は、当該制度をこれまでより多く利用していただき、自主防災組織（防災福祉コミュニティ）の活性化に取り組む。

今後の展開

| | | | | | |
|---------------|--|--|--|----------------------------------|--|
| 実施団体 | 和歌山県 和歌山市 | 事業名 消防団応援プロジェクト ～最新の防火衣を着て消防団の魅力向上、知名度UP～ | | | |
| 取組分類 (該当■) | <input type="checkbox"/> 人材育成 | <input checked="" type="checkbox"/> 防災訓練 | <input type="checkbox"/> 避難所運営 | <input type="checkbox"/> その他 () | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> PR活動 | <input type="checkbox"/> 環境整備 | <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 | <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 | <input checked="" type="checkbox"/> 自治会(町内会) | <input type="checkbox"/> 学校 | |
| | <input type="checkbox"/> 医療機関 | <input checked="" type="checkbox"/> 事業所 | <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 | <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ | |
| | <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ | <input type="checkbox"/> 防災士会 | <input type="checkbox"/> NPO | <input type="checkbox"/> ボランティア | |
| | <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | |
| 地域の 特性・課題 | 和歌山市の人口の減少や高齢化などにより消防団員数は、減少の一途をたどっています。入団を促すためにも消防団の広報や地域と連携した事業を積極的に実施し、多くの方々に消防団への理解を深めていただく必要があります。 | | | | |
| 事業の目的 | 店舗や自治会、自主防災組織など多くのコミュニティと連携して事業を実施することで、消防団員入団促進を向上させます。 | | | | |
| 事業の概要 | 消防団及び地域の店舗（事業所）、消防局などが連携し、地域の店舗（事業所）に「消防団応援の店」として登録していただき、消防団員に自主的な独自のサービスを提供することで、消防団の加入促進や地域の方々に消防団の理解を深めていただきます。これらの取り組みを中核として、さらに消防団員が消防局・自主防災組織・自治会などと連携し最新のスタイリッシュな防火服を着装して地域で直接的な広報（地域の方とのコミュニケーション、チラシの配布など）を実施することで、さらなる効果の向上を図ります。 | | | | |
| 事業の背景 | 消防団において、核家族化、職業構造の変化により地域の連帯感が希薄化するなどで、地域コミュニティの機能低下が問題となっている現在、地域コミュニティと連携した事業を実施していくことが重要です。 | | | | |

消防団応援のお店では、令和4年11月～12月までの短期間で、事業所（店舗）からの登録申請数が21店舗となり、防災訓練では、コロナ禍ではあるものの約300名の地域住民が参加されたことで、多くの方々に消防団の認知度をPRすることができました。

さらに大々的に事業を実施することができたことで、今後も事業所（店舗）と連携した取組を実施し続けることが可能となり、さらに防災訓練への参加で地域の防災組織とのつながりも確立することができました。新モデルの防火衣は、大人数の地域住民の中でも一際目立っており、隊員の士気高揚にも繋がっていると実感しました。

事業の成果

写真1 2022/11/1
消防団応援のお店表示証交付式



写真2 2022/11/1
消防団応援のお店表示証交付式



写真3 2022/12/3
雑賀崎地区防災訓練



写真4 2022/12/3
雑賀崎地区防災訓練



事業の写真
成果物等

写真5 2022/12/3
雑賀崎地区防災訓練



写真6 2022/12/3
雑賀崎地区防災訓練



コロナ禍ということで、今回は1地域の防災訓練のみの実施となってしまいましたが、今後は各地域での実施に展開していきたい。

消防団応援のお店については、さらなる登録店舗数を獲得するため継続して店舗の募集を行っていきます。

今後の展開

| | | | |
|---------------|--|------------------------------------|--|
| 実施団体 | 和歌山県 海南市 | 事業名 誰ひとり取り残さないインクルーシブな地域を目指した取組 | |
| 取組分類 (該当■) | <input type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 防災訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> PR活動 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input checked="" type="checkbox"/> その他(民生委員・児童委員、公民館関係者、企業、和歌山県看護協会等) | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>今回、取組を行う海南市の「異地区」は、南海トラフ地震において、津波の浸水想定区域外に位置しており、緊急輸送道路である阪和自動車道や国道42号に直結する国道370号が東西に横断するなど、避難者を受け入れるのに適した地域である。さらに、災害対策本部及び復旧・復興拠点でもある海南市役所、本市の災害時の受援拠点である海南市総合体育館や災害ボランティアセンターとなるわんぱく公園をはじめ、国土交通省、海南保健所など、防災上の重要な公共施設が隣接している。他方で、本市の避難行動要支援者の個別避難計画作成率が令和3年12月末現在で46.4%の中、同地区の計画作成率は49.3%と市全体よりも2.9%高いものの低迷している。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>近い将来発生が予測される南海トラフ地震に備え、自主防災組織等の地域関係者、市、社会福祉協議会、企業、団体、学生、ボランティア等が連携・協働して、福祉事業所や施設利用の障害者、乳幼児等の子育て中の親子等が参加のもと、避難行動要支援者避難誘導や要配慮者に配慮した避難所運営、また命を繋ぐための福祉避難所への移送するなど、インクルーシブな視点を取り入れた実践的な訓練を通じて、災害関連死ゼロを目指し、地域の連携促進と、地域防災力強化に向けた必要な知識や行動を身に付けることを目的とする。</p> | | |
| 事業の概要 | <p>東日本大震災では、高齢者や障害者等の要配慮者が避難環境に十分適応できなかったとの多くの報告があることから、南海トラフ地震に備え、地域の自主防災組織等の地域関係者と外部支援者が連携し、高齢者や障害者等に配慮した災害時に誰ひとり取り残さないインクルーシブな避難所運営を実施することで、要配慮者を支援する取組を促進する。</p> <p>今回は、市内全域を対象とした訓練に加え、重点地区を内陸部の異地区とし、異地区の自治会・自主防災組織や民生委員・児童委員等の地域関係者、市内の高校生や県内の大学生、福祉事業所や障害者当事者、乳幼児等の子育て中の親子等が参加するインクルーシブな視点による訓練の実施や、要配慮者支援の重要性を学ぶ研修会、小学校や中学校で福祉防災学習、市内全域の自治会・自主防災組織を対象に研修を実施し、要配慮者に寄り添ったインクルーシブな防災の取組を推進することで、地域の連携促進や地域防災力の強化を行う。</p> | | |
| 事業の背景 | <p>「誰ひとり取り残さないインクルーシブな地域を目指した取組」の実効性を向上させるため、地域関係者や福祉関係者、学生、企業や団体、ボランティア等、多様な方々が連携して「災害関連死を防ぐ」ための訓練等に取り組むことで、インクルーシブな視点による地域防災力の向上や福祉防災に関する意識醸成を図った。</p> <p>また、訓練では、福祉関係者や学生、企業や団体等のそれぞれの特性を最大限に活かすとともに、被災時に実現性が高い取組となるよう、市や社会福祉協議会の調整のもと、連携体制を構築し、避難所設置・運営訓練、支援物資輸送・配布訓練、電気自動車等からの電源確保訓練、移動通信車による通信確保訓練、災害ボランティア活動訓練、在宅避難者対応訓練、福祉避難所移送訓練を実施した。</p> <p>さらに、乳幼児の親子や障害者、高齢者等も一緒に訓練に参加する中、配慮が必要な方に連携して支援するとともに、被災時の過酷な環境下では避難所の子どもたちの声が避難者に安心感を与えることや、平時に福祉施設で障害者が製造しているクッキーを避難者に支援するなど、地域環境を活かし、災害時に地域で共に支えあうための様々な可能性を今後も考えることができるよう訓練等に取り組んだ。</p> | | |

「誰ひとり取り残さないインクルーシブな防災訓練」をテーマに実施し、乳幼児等の子育て中の親子や、障害当事者も参加する中、地域の自主防災組織や高校生、福祉施設関係者、防災士、災害ボランティアがグループとなるとともに、企業等と連携し、災害関連死を防ぐための避難所環境の整備のほか、被災した子どものケアのためのキッズスペースの設置を実施し、障害当事者や乳幼児等の要配慮者、子育て中の親子等の様々な立場の方が参加することで、多様な配慮についてより深く考える機会となったほか、地域住民や要配慮者、福祉施設等と協働で訓練を実施することで、地域における顔の見える関係の構築に繋がった。

事業の成果

写真1 2022/11/13
インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練



写真2 2022/11/13
障害者福祉施設からクッキーの支援



写真3 2022/11/13
乳幼児に配慮した避難所設置・運営訓練（キッズスペース設置）



写真4 2022/11/13
乳幼児親子の避難所体験



事業の写真
成果物等

写真5 2022/11/13
要支援者への聞き取りの様子



写真6 2022/11/13
福祉避難所移送訓練（移送の様子）



個別避難計画は、福祉部局が主体となり、地域関係者、福祉施設や福祉専門職などと連携して、避難支援等に必要な情報を共有、調整を行い、計画作成を進めていく。

要配慮者への支援には、必要な福祉サービスを提供できるよう、更なる福祉避難所の確保に努める。

HPや冊子に各自主防災組織の取組を掲載し、組織の枠を超えた、他の組織等との連携・協働意識の醸成を図るとともに、水平展開を進めていく。

今後の展開

| | | | | | |
|---|--|--|--|---|----------------------------------|
| 実施団体 | 鳥取県 | 事業名 鳥取県少年消防クラブ育成・連携支援事業 | | | |
| | 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> PR活動 | <input type="checkbox"/> 防災訓練 <input type="checkbox"/> 環境整備 | <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input checked="" type="checkbox"/> 組織の設立 | <input type="checkbox"/> その他 () |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 | <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> その他 () | <input type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> NPO | <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input type="checkbox"/> ボランティア | |
| | <p>鳥取県においては過疎高齢化が進行し、自主防災組織や消防団の担い手が年々減少しているため、地域住民全体で防災活動に取り組めるよう、次代を担う子ども達による少年消防クラブを結成するとともに、自主防災組織や消防団等の多様な主体によるクラブ員への防災教育を通じて、県全体の防災意識を高めて防災活動への積極的な参画を促し、消防団員や自主防災組織のリーダー育成に繋げていく必要がある。</p> | | | | |
| | <p>将来の防災活動の担い手となる子ども達で構成される少年消防クラブの結成やその活動を支援するとともに、同クラブに対する指導・助言を自主防災組織や消防団等の地域の多様な主体が連携して行うことにより、子どもの防災意識の高揚や防災に関する知識・技能の習得を図る。 また、これらの取組を通じて、地域の多様な主体の連携を深めるとともに、子どもや保護者をはじめ、地域住民が、自主防災組織や消防団等に参加する契機にするるとともに、地域の防災活動への積極的な参画を促進する。</p> | | | | |
| | <p>子どもの防災意識の高揚や防災に関する知識・技能の習得を図り、地域の防災組織間の連携を深めるとともに、子どもや保護者、地域住民が自主防災組織や消防団等に参加したり、防災活動に積極的に参画することを促進するため、少年消防クラブの結成に必要な支援を行うとともに、クラブ員の募集やクラブ員に対する規律等の指導を、消防団をはじめとした地域の防災関係組織が連携して行った。</p> | | | | |
| <p>地域で活動している消防団や自主防災組織等の多様な主体が少年消防クラブと一緒に防災訓練等を行い、同クラブへの指導・助言を継続的に行うことにより、その活動が広く周知され、同クラブへの新規加入者も増え、活動が一層活発になることが期待できる。 また、子どもたちが地域のために行動する姿は、防災活動に取り組んでいる者ばかりでなく、保護者をはじめとする地域住民に広く関心を持ってもらえることが期待できる。</p> | | | | | |
| 事業の背景 | | | | | |

本事業の実施により、昨年度新たに設立された湯梨浜少年消防クラブが、コロナ禍でもできる範囲での活動を継続するなど、地域住民や学友への波及効果及び将来の防災活動の担い手となる子ども達の育成が期待される。

本年度は昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の拡大により、少年消防クラブの活動自粛や当初計画していた事業が変更、延期又は中止となるなど実施内容が大幅に縮小し、当初計画していた実施成果に繋げることが出来なかった。

事業の成果

写真1 2022/7/30
消防防災航空センター見学・防災研修①



写真2 2022/7/30
消防防災航空センター見学・防災研修②



写真3 2022/8/20
倉吉消防署見学・防災訓練①



写真4 2022/8/20
倉吉消防署見学・防災訓練②



事業の写真 成果物等

写真5 2022/10/23
防災啓発活動（米子市消防団少年消防クラブ）



写真6 2023/1/8
湯梨浜町出初式



これまでの県内少年消防クラブの活動支援により、子どもの防災知識の向上や防災への意識、また様々な世代の防災への関心が高まっており、引き続き、本取組を推進するとともに、今後は、これらの活動の周知、広報により少年消防クラブ未結成地域での更なる結成促進を図る。

本年度は、昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の拡大により、新規設立に向けた機運の醸成や既存の少年消防クラブがこれまで通りの活動を行えないといった課題に直面した。このような中でも生まれた成果や活動の工夫、アイデア等を集約、共有し、コロナ後を見据えて今後の活動に反映する。

今後の展開

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 実施団体 | 広島県 三原市 | 事業名 市内少年消防クラブの合同訓練による地域防災力向上のための人づくり推進事業 | |
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 防災訓練 <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> PR活動 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 組織の設立 | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input checked="" type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input checked="" type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> ボランティア <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>当市は、平野が少なく、沿岸部であることから、様々な風水害が懸念される。平成30年の西日本豪雨災害では甚大な被害を受け、市民の防火防災に対する意思が高まっており、地域防災の体制の確立が求められている。</p> <p>高齢化社会、人口減少が進む中、地域防災力向上のため、人材確保及び地域防災の担い手の育成が必要である。</p> <p>現在、市内には2クラブの少年消防クラブが活動をしている。両クラブの活性化により、地域防災の継続的な担い手の人材育成をもって、地域防災力の向上に繋げていく必要がある。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>沼田東小学校少年消防クラブは、昭和41年に発足はしているものの、活動は限定的(消防まつり、出初式のみ)で、実践的な活動ができていない状況である。</p> <p>三原市Brave Fire Clubは、今年度から、市内小学校5、6年生の30名により活動を開始した新規のクラブである。</p> <p>このことから、事業目的である両クラブの活性化及び効率化、さらには継続したクラブ員の人材育成を図るため、年間計画を立て両クラブ合同により、自主防災組織及び消防機関等の協力機関と連携し、地域防災力の向上を目指す。</p> | | |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○消防署体験入隊(令和4年10月2日) 放水体験・消火器取扱訓練・救命講習・救助訓練 ○消防まつり(令和4年10月29日) 来場者に防火ティッシュ配り及び自主防災会とのバケツリレー ○防災研修(令和4年11月6日) 防災ネットワークによる防災教育及び炊き出し訓練、消火器取扱訓練 ○防災ヘリ見学(令和4年11月26日) 広島県防災航空センターの施設及び広島県防災航空隊と消防署の連携訓練の見学 ○先進地視察研修(令和4年12月3日から4日) 香南市吉川こども防災クラブとの意見交流会及び徳島県防災センターの体験学習 ○出初式(令和5年1月8日) ○防災研修(令和5年2月5日) ロープワーク・簡易担架作成・訓練用消火器消火訓練(チーム対抗) | | |
| 事業の背景 | <p>市内には2クラブの少年消防クラブが活動をしている。指導的立場の人材不足から単独での活動は難しいことから、両クラブ合同により、自主防災組織及び消防機関等の協力機関と連携し各種行事を実施した。事業目的である両クラブの活性化及び効率化、さらには継続したクラブ員の人材育成を図るため、年間計画を立て、クラブ員は基より、保護者にも参加してもらい、地域防災の継続的な担い手の人材育成及び地域防災力の向上の必要性について、クラブ員、保護者そして地域への発信並びに地域防災の継続的な担い手の人材育成となる活動内容とすることが必要であった。</p> | | |

本事業実施により、クラブ員の防火防災に対する意識が活動を重ねるごとに強くなっていることを感じることができた。また、付添の保護者も活動を見たり参加することにより、家族ぐるみでのクラブ活動となり、防火防災の知識・技術の向上に繋がった。これにより、クラブ員から家族、家族から地域へ、地域防災の継続的な担い手の人材育成及び地域防災力の向上の必要性についての発信並びにクラブ員の知識及び技術の向上に繋がった。保護者・クラブ員から中学生でのクラブ活動の継続について要望があったことから、将来の地域防災の担い手となる人材育成の基盤を作ることができた。

事業の成果

写真1
消防署体験入隊

2022/10/6

写真2
消防まつり

2022/10/29



写真3
防災研修

2022/11/6

写真4
先進地視察研修（香南市）

2022/12/3



事業の写真
成果物等

写真5
先進地視察研修（徳島県防災センター）

2022/12/4

写真6
防災研修

2023/2/6



令和5年度については、市内の5年生を対象としてクラブ員を公募する。（三原市Brave Fire Club）

年間行事計画は、基本的には今年度と同様とするが、少年消防クラブ及び自主防災会主体の実践的な防災訓練を考えていきたい。また、地域の自主防災訓練にも参加し、クラブの必要性をアピールしていき、地域防災の活性化に繋げていきたい。

今後の展開

| | | | |
|---------------|---|-----------------------------|--|
| 実施団体 | 広島県 福山地区 消防組合 | 事業名 地域防災力の向上のための人づくり推進事業 | |
| 取組分類 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> 防災訓練 <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> PR活動 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 組織の設立 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 連携団体 (該当■) | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 <input type="checkbox"/> 自治会(町内会) <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 事業所 <input type="checkbox"/> 消防団 <input type="checkbox"/> 女性防火クラブ <input checked="" type="checkbox"/> 少年消防クラブ <input type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>このたび、新たに設置されたあけぼの少年少女消防クラブの所在地である広島県福山市曙町は、福山市中心部であり、2022年(令和4年)3月末現在で人口総数は約8千人となっている。南海トラフ地震が発生した場合、福山市にも津波が到達すると予想され、その中でも福山市中心部で最も危険な地域が福山市曙町であり、福山市としては、大きな揺れが収まったのを確認したらすぐに高台(指定の避難場所や山)に避難するようにと注意を促している。</p> | | |
| 事業の目的 | <p>福山地区消防組合管内(福山市・府中市・神石高原町)では、平成30年7月の西日本豪雨災害を受け、住民の防火防災意識の高揚や、地域ぐるみの防災体制を確立することがますます求められている。</p> <p>そのため、今後、より防災意識の高い実践的な人材の確保を図り、地域防災の担い手の継続的な育成に努める必要がある。</p> | | |
| 事業の概要 | <p>あけぼの少年少女消防クラブが新規に設置され、地元自主防災組織と連携を図り合同訓練を行うに当たり、安全管理の徹底を図るため活動服を整備し、併せてクラブ員の意識高揚を図るため消防旗を整備するもの。</p> | | |
| 事業の背景 | <p>一般的に自主防災組織は町内会単位で形成されていることが多く、地域コミュニティを生かし、連携しやすい子ども会を取り込むことにより、若年層からの防災教育を推進できた。</p> | | |

クラブ活動の活性化及び指導者の育成を図られ、将来の地域防災を支える人づくりが実施できた。少年消防クラブは、少子高齢化の進展などの社会情勢を背景としてクラブ員が減少傾向にあり、活動が形骸化しているクラブも多く認められることから、クラブ員の確保のため、クラブ員指導者の育成と実践的なクラブ活動が実施できた。

事業の成果

写真1
活動服（上着）



写真2
活動服（ズボン）



写真3
長旛旗



写真4
広島県防災航空センター研修



事業の写真
成果物等

写真5

写真6

自主防災活動が活発な地域の子ども会を対象として、モデル的に少年消防クラブを発足させたことで、若年層からの防災教育を推進できた。

今後、福山地区消防組合管内全体にクラブ員の募集を行い、クラブの活性化を図る。

今後の展開

| | | | | |
|---------------|--|--|---|---|
| 実施団体 | 高知県 南国市 | 事業名 車中避難所受入訓練 | | |
| 取組分類 (該当■) | <input type="checkbox"/> 人材育成 | <input type="checkbox"/> 防災訓練 | <input checked="" type="checkbox"/> 避難所運営 | <input type="checkbox"/> その他 () |
| 連携団体 (該当■) | <input type="checkbox"/> PR活動 | <input type="checkbox"/> 環境整備 | <input type="checkbox"/> 組織の設立 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体 | <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織 | <input type="checkbox"/> 自治会(町内会) | <input type="checkbox"/> 学校 |
| | <input type="checkbox"/> 医療機関 | <input type="checkbox"/> 事業所 | <input type="checkbox"/> 消防団 | <input checked="" type="checkbox"/> 女性防火クラブ |
| | <input type="checkbox"/> 少年消防クラブ | <input type="checkbox"/> 防災士会 | <input type="checkbox"/> NPO | <input type="checkbox"/> ボランティア |
| | <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 | <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>南海トラフ地震による被害が想定され、発災時には各地域で避難生活が始まり、その中で新型コロナウイルス感染症の予防の必要性から、車中泊避難者が激増することが予想され、その避難生活について検討する必要がある。</p> | | | |
| 事業の目的 | <p>南海トラフ地震等の災害時には、新型コロナウイルス感染症の拡大による避難所生活を敬遠し、車中泊での避難を希望する避難者が増えることが予想されることの課題に対して、自主防災組織と女性防火クラブが連携して、車中避難所の講演及び車中避難所受入訓練を行うことにより、課題解決と、地域住民の防災意識の向上を目指す。</p> | | | |
| 事業の概要 | <p>各地域の中心である自主防災組織と女性防火クラブを対象に車中泊避難についての講演を行い、実際に駐車場内での受付からゾーニングの確認まで実施し車中泊避難を理解する。また、車中泊避難に関わる防災資器材の展示も行う。</p> | | | |
| 事業の背景 | <p>自主防災組織と女性防火クラブが連携して行える訓練を市危機管理課と協議をした結果、避難所での訓練は行っているが車中泊避難についての講演並びに訓練を行ったことがない事、現在の新型コロナウイルス感染症の予防の観点から必要がある事からこの事業を行った。</p> | | | |

車中泊避難受入訓練を実施し、参加者にアンケート調査を行い、講話内容や今後に役立つか、実際に車中泊避難を考えているか、今後この訓練を実施したいかとの問い掛けに、大半の参加者がこの訓練に対し有意義であり、避難場所に車中泊避難を考えており、今後、訓練を実施したいとの回答を得ました。また、訓練の感想等で、車中泊避難者自身の対応や各地区の駐車スペースの問題や車中泊避難者の受入条件の設定等、様々な課題が参加者に理解できたことで、今後地区で検討する材料になったとの意見が寄せられました。地域住民に対し、避難所に対する多様な選択肢を考えるきっかけ作りになった。

事業の成果

写真1
車中泊避難受入講演

2023/1/22



写真2
車中泊避難受入訓練

2023/1/22



写真3
車中泊避難受入訓練

2023/1/22



写真4
車中泊避難受入訓練

2023/1/22



事業の写真
成果物等

写真5
車中泊避難受入訓練展示物

2023/1/22



写真6
車中泊避難受入訓練展示物

2023/1/22



各地域において自主防災組織と女性防火クラブが中心となり、車中泊避難受入訓練を実施する。

今後の展開

| | | | | |
|---------------|---|---------------------------------|------------|-----------------|
| 実施団体 | 福岡県 八女地区 消防組合 | 事業名 八女市消防団・自主防災組織等地域交流連携訓練事業 | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | ■ 防災訓練 | □ 避難所運営 | ■ その他（知識・技術の習得） |
| | □ PR活動 | □ 環境整備 | □ 組織の設立 | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | ■ 自主防災組織 | ■ 自治会(町内会) | □ 学校 |
| | □ 医療機関 | □ 事業所 | ■ 消防団 | ■ 女性防火クラブ |
| | □ 少年消防クラブ | ■ 防災士会 | □ NPO | □ ボランティア |
| | □ 社会福祉協議会 | ■ その他（警察） | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>近隣の山間部に、牟田行政区（人口約200人）で管理する溜池が5カ所あり、豪雨や地震により、もし崩壊でもすれば、下流（牟田行政区）の民家・農地への被害の恐れが懸念されている。</p> <p>高齢化率が非常に顕著で、建物の老朽化や空き家等もあり、台風情報を基に、近隣の共助による早期の自主避難の意識が必要である。</p> <p>地区名「牟田」は、昔は、水分多き堆積土の湿地帯に由来する地区名でもあり他の地区に比べ、軟弱な地盤の地区であると推定される。よって、震度の割には、木造家屋の倒壊等の被害が起こりやすい地区と想定されるので、特に、日頃・平常時の地震・火災への防災の取組みが重要である。</p> | | | |
| 事業の目的 | <p>牟田行政区は高齢化・少子化が顕著であり、消防団員も少ない状況であることから、消防団、自主防災組織、女性防火クラブに警察や防災士会等も参加し、それぞれの枠を超え連携訓練を実施することにより自助・共助力を強化することを目的とする。</p> | | | |
| 事業の概要 | <p>これまで消防団と自主防災組織の訓練は定期的に行っているところであるが、令和4年12月、牟田行政区において、今回は女性防火クラブ、警察、防災士会も参加し、より地域防災力の向上を図ることを目的に実施</p> <p>地域の個々の情報にも詳しい警察（署・駐在所）の参加を得て、消防団・自主防災組織と協力し、地震・自然災害等を想定した避難誘導訓練</p> <p>その後、火災が発生したと想定し消防団、地域住民、自主防災組織等による火災防ぎょ訓練</p> <p>女性防火クラブによる非常炊き出し訓練、応急手当普及員である消防団（女性消防団含む。）を中心とし、住民に対する救急訓練、警察・防災士による防災・防犯講話及び災害図上訓練を計画し、訓練の質の向上や連携を強化</p> | | | |
| 事業の背景 | <p>社会環境の変化が著しい中で、消防団及び自主防災組織の高齢化が進んでいます。よって、地域を支える複数の組織がそれぞれの枠を超え連携訓練を実施することにより自助・共助力を強化すること。また、その中で、消防団が地域防災力の中核としての役割を果たす体制を継承すること。を念頭に事業を展開していくことにしました。</p> <p>それぞれの組織と密に計画を練り、消防団をはじめとする参加者すべての人が、必要な知識、技術の向上に繋がり、達成感を感じるとともに、今後も継続して連携訓練を行う意識になるものと考えます。</p> | | | |

様々な団体が参加して1つの行政区と訓練することは今までになく、自主防災組織や地域との連携が深まりました。参加した住民から、災害時の対応方法や行動確認等の実災害に即した質問も多くあり、参加して良かったという意見をたくさんいただきました。また、今後も消防団員が主体となる連携訓練を継続して実施することとなりました。

事業の成果

写真1
住民避難訓練

2022/12/11



写真2
火災防ぎょ訓練

2022/12/11



写真3
防災士による指導（災害図上訓練）

2022/12/11



写真4
救急訓練

2022/12/11



事業の写真
成果物等

写真5
防犯講話

2022/12/11



写真6
炊き出し訓練

2022/12/11



法律において、市町村は地区防災計画を定めた地区について、訓練を実施することで、常に新しい知識や技術等を見直し、より充実した地区防災計画を策定していきます。また、継続して実施することにより、自主防災組織等の組織や地域の中からも防災リーダー等を目指す人材を育成出来ると考えます。

消防団と自主防災組織又は地域が連携した訓練を継続して実施することにより、地域住民の防災意識の向上を図るとともに、消防団を中核とした地域防災体制の充実を図っていきます。

今後の展開

| | | | | |
|---------------|--|--------------------------------------|------------|-----------|
| 実施団体 | 長崎県 長崎市 | 事業名 消防わく ² （わくわく）探検隊事業 | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | ■ 防災訓練 | □ 避難所運営 | □ その他（ ） |
| | ■ PR活動 | □ 環境整備 | □ 組織の設立 | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | □ 自主防災組織 | □ 自治会(町内会) | □ 学校 |
| | □ 医療機関 | □ 事業所 | ■ 消防団 | ■ 女性防火クラブ |
| | ■ 少年消防クラブ | □ 防災士会 | □ NPO | □ ボランティア |
| | □ 社会福祉協議会 □ その他（ ） | | | |
| 地域の 特性・課題 | <p>当市は、市域のほとんどを山に囲まれているため、多くの斜面地を有し、平地に乏しく、河川も川幅、流域ともに狭く短いものが多くある。このような地形上の特性から、過去には豪雨による大規模な水害（昭和57年7月23日 長崎大水害）が発生し、多くの人命が失われた経緯があり、災害発生時における住民による自助、共助については、地域の防火防災上、大変重要になる。</p> <p>しかしながら、当市の現状として、全国的に見ても早いペースで、高齢化や若者の転出超過が進んでおり、将来的な地域の防火防災分野における担い手が不足することが危惧されることから、特に若い世代に対する育成を重点的に行う必要がある。</p> | | | |
| 事業の目的 | <p>当市は全国的に見ても早いペースで、高齢化、若者の転出超過、少子高齢化が進んでおり、地域の防火防災の分野において、担い手の不足につながるものが危惧されることから、少年消防クラブの活動を活性化し、地域ぐるみで将来の防火防災の担い手を育成することを目的とする。</p> | | | |
| 事業の概要 | <p>1 少年消防クラブ員によるまちあるき 少年消防クラブ員が、地元の消防団員や婦人防火クラブ員などとともに、自分たちが住んでいる地域の消防署所、指定避難所、消防団協力事業所などの訪問、災害用非常食の実食を行い、体験や見学、関係者との交流を通して、防火や防災についての知識を身につけてもらうことで、将来の防火防災の担い手を育成する。</p> <p>2 まちあるきの動画配信 まちあるきの様子を撮影し保護者などへライブ配信を行うこととともに、撮影した動画を編集し市のホームページへ掲載することで、視聴者の防火防災意識の高揚を図ることと併せて、少年消防クラブの活動を広く広報することで新規結成につなげる。</p> | | | |
| 事業の背景 | <p>消防団、消防団協力事業所及び婦人防火クラブ員等に本事業を説明し、まちあるきへの協力を依頼した。併せて、まちあるきの中で、少年消防クラブ員に放水及び防災行政無線のテスト体験を行わせるため、関係地区の自治会からの許可を得て本事業を実施した。</p> <p>また、本事業の実施を市民に周知するために、報道機関へのプレスリリースを実施した。</p> | | | |

まちあるきに参加した少年消防クラブ員の防火防災意識の向上及び将来の地域防災の担い手の育成を図ることができた。
 また、まちあるきの動画を市のホームページに掲載し、令和5年2月1日現在で、250回を超える再生数を獲得しているため、少年消防クラブの広報にもつなげることができた。
 なお、本事業は4地区4クラブで実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2地区2クラブの実施が延期となった。延期した2回にあっては、今年度末及び来年度に実施予定である。

事業の成果

写真1
探検隊結成式

2022/8/2



写真2
消防局と消防団の違い

2022/8/2



写真3
長崎大水害で崖崩れが発生した場所

2022/8/2



写真4
テレビ局が撮影に来ています

2022/8/3



事業の写真
成果物等

写真5
消火栓の中を見てみよう

2022/8/3



写真6
探検後のお楽しみ 非常食ガチャガチャ

2022/8/3



次年度以降も、他の少年消防クラブ結成地域においても事業を拡大していく予定であり、その事業展開の中で、実施地域における婦人防火クラブの新規結成や消防団協力事業所の新規登録にもつなげることができると考える。
 また、実施地域の消防団や婦人防火クラブと連携した事業を行うことで、各団体の顔の見える関係の構築と活動の活性化を図られ、将来の防火防災の担い手づくりと併せて、地域全体の防火防災力の向上にもつなげると考える。

今後の展開

| | | | | |
|---------------|--|-------------------------------------|------------|-----------|
| 実施団体 | 熊本県 荒尾市 | 事業名 防災啓発活動及び防災士との連携訓練による地域防災力の向上 | | |
| 取組分類 (該当■) | ■ 人材育成 | ■ 防災訓練 | ■ 避難所運営 | □ その他 () |
| | ■ PR活動 | □ 環境整備 | ■ 組織の設立 | |
| 連携団体 (該当■) | ■ 地方公共団体 | ■ 自主防災組織 | ■ 自治会(町内会) | ■ 学校 |
| | ■ 医療機関 | ■ 事業所 | ■ 消防団 | □ 女性防火クラブ |
| | □ 少年消防クラブ | □ 防災士会 | □ NPO | ■ ボランティア |
| | ■ 社会福祉協議会 | ■ その他 (防災士) | | |
| 地域の 特性・課題 | 井手川地区は荒尾市の北部に位置し、井手川地区内を流れる関川沿いの地域は浸水想定区域に指定されている。また、令和2年7月豪雨時に関川が氾濫し、川沿いの家屋で床上浸水するなどの被害が出ており、住民の中には今後また被害が発生することを心配する声が少なくない。地区の人口は減少傾向にあり、高齢化率も増加している。今後、少子高齢化の進展とともに自治会等の成り手不足などの影響が大きく、平時からの訓練が困難になることが想定されるとともに災害時の対応が懸念される。そのため、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の考え方のもと、災害発生時における避難誘導や安否確認等を自主防災組織や自治会等が中心に取り組みむと同時に、避難所運営も地域で取り組むことが求められる。 | | | |
| 事業の目的 | 防災訓練では、消防団や自主防災組織など地域と行政が協力して、避難所運営訓練を行うとともに、防災士との連携体制の構築を図り、防災リーダーの育成、地域防災力の向上を図る。 あらお防災フェスタは「見て、体験して、楽しんで防災」をテーマに演奏会や展示などを通じて防災に関する啓発等を実施し、市民の自助・共助の促進を図る。 | | | |
| 事業の概要 | <p>あらお防災フェスタ（8月28日）</p> <p>「見て、体験して、楽しんで防災」をテーマに演奏会や展示などを通じて、防災に関する啓発等を防災展示・体験等と防災コンサートに区分して実施する。</p> <p>防災展示・体験等では、警察・消防・自衛隊等の車両展示、防災事業者等による防災グッズの展示・紹介、また、降水体験、煙体験、浸水ドアの体験コーナー。さらに幅広い集客を行うために、移動動物園・水族館、似顔絵、キッチンカー、くまモンを呼び防災クイズを行った。</p> <p>防災コンサートでは、演奏終了後に地震が発生した想定で地震避難訓練を行い、災害発生時の行動を習得することを目的とする。</p> <p>防災訓練（11月13日）</p> <p>地区協議会や自主防災組織が中心となって消防団や様々な避難支援等関係者と協力しながら地区住民による避難所運営や避難者によっては福祉避難所へ移送する訓練を行う。また、防災士とも連携し、防災士の支援による行政に頼らない避難所運営を円滑に行うことを目的とした避難所運営訓練とする。</p> | | | |
| 事業の背景 | <p>あらお防災フェスタでは、市民の自助・共助の促進を図ることを目的としている。しかし、防災のみでは、多くの方に啓発を行うのが難しく、多くの来場者が見込めないため、来場者を増やすために、降雨体験、浸水ドア、警察・消防・自衛隊の展示車両やキッチンカーを設けた。また家族連れでも楽しめるよう移動動物園・水族館を設置をした。さらに、くまモンにも来てもらい防災クイズをするなどし、幅広い集客を行った。</p> <p>避難所運営訓練では、まず、避難所運営委員会を設置するための準備として、井手川地区協議会を中心に民生委員や消防団など各種団体呼びかけてもらい、組織化を図った。そのうえで、訓練前に会議を4回実施し、避難所運営マニュアルをもとに、訓練内容の説明を行った。そのほか、防災士の方に協力を依頼し、井手川地区と連携し防災活動を行った。また、本市福祉課、福祉施設、荒尾市身体障害者福祉協会連合会等と連携し、要配慮者を福祉施設、福祉避難所である荒尾支援学校へ移送する方法について事前協議を行った。</p> | | | |

避難所運営訓練では、約200名の方に参加していただいた。コロナ対策を取りながら、防災士や多くの団体に訓練参加の協力を依頼し、連携を深めることができた。また、避難所運営委員会の役員の方の決定もでき、急な災害発生時にも地域による円滑な避難所運営が行うことが可能な体制を作ることができた。

あらかお防災フェスタの来場者は約1500人の来場者であり、子供から高齢者まで幅広い年齢層に対し、防災啓発ができた。また、コンサート終了後に地震を想定した避難訓練を行い、施設から屋外まで避難をし、自助・共助の促進をはかることができた。

事業の成果

写真 1

2022/11/13

タイトル：避難所の受付（防災訓練）



写真 2

2022/11/13

タイトル：消防団による福祉避難所への移送（防災訓練）



写真 3

2022/11/13

タイトル：避難所運営委員会の会議（防災訓練）



写真 4

2022/8/28

タイトル：防災コンサート（あらかお防災フェスタ）



事業の写真
成果物等

写真 5

2022/8/28

タイトル：屋外展示（あらかお防災フェスタ）



写真 6

2022/8/28

タイトル：防災クイズ（あらかお防災フェスタ）



あらかお防災フェスタの来場者は約1500人であり、子供から年配の方まで幅広い年齢層の方々に防災について知ってもらうことができたので、今後も防災啓発を行っていきたい。

避難所運営訓練をとおして、各関係機関や防災士との連携体制が構築できたことから、今後も連携をして地域防災力の向上を図りたい。

今後の展開